

循環器病研究所

Research Report 2024
Cardiovascular Research Institute, Kurume University

久留米大学循環器病研究所紀要
2024年



発行 久留米大学循環器病研究所

目次

循環器病研究所紀要 2024 年

Research Report 2024

Cardiovascular Research Institute, Kurume University

「巻頭言」	1
「循環器病研究所活動報告 2024」	3

リサーチレポート 2024 年

プロジェクト 1 : 循環分子治療研究・血管新生研究部門	5
プロジェクト 2 : 大動脈疾患研究部門	8
プロジェクト 3 : 川崎病研究部門	13

2024 年業績

1, 原著	14
2, 著書	22
3, 総説	24
4, 国際学会	25
5, 国内学会	31
6, 研究会	56
7, 顕彰	72
8, 研究助成金	73

巻頭言

ご挨拶

心臓・血管内科主任教授

循環器病研究所所長 福本 義弘

歳月を重ねるごとに、時間は均質に流れるものではないとを感じるようになりました。充実した日々は瞬く間に過ぎ、気づけばまた新たな一年を迎えています。私が循環器病研究所所長を拝命してから 10 年が経過し、本年より 11 年目に入りました。この歩みは、決して私一人のものではなく、諸先輩方、研究所員の皆さん、そして地域の方々の支えの積み重ねであります。まずもって、深い感謝を申し上げます。

2024 年度は、社会全体が次の時代へと静かに移行する過程にあった一年でした。対面での議論が戻り、国際的な交流も再び活発となりました。一方で、オンラインという新たな手段も定着し、研究活動は空間的制約を越えて展開されるようになりました。効率性と直接的対話の双方をどう活かすか。その選択は単なる方法論の問題ではなく、研究の質そのものに関わる問いでもあります。

世界情勢は依然として不安定であり、国際社会には緊張が続いています。こうした状況の中で、研究とは何か、大学の使命とは何かを改めて考えさせられます。研究とは単に成果を生み出す行為ではありません。未知に向き合い、問いを立て、不確実性と対峙し続ける営みです。答えがすぐに得られないことを受け入れ、仮説と検証を重ねる過程そのものが、社会に対する誠実さであると私は考えております。

循環器病研究所の活動は、「日常診療」「臨床研究」「基礎研究」という三つの柱によって支えられています。しかしそれらは独立したものではなく、相互に影響し合う循環構造を成しています。診療の現場で生まれた疑問が研究へと昇華し、研究で得られた知見が再び診療へ還元される。この往還こそが、私たちの存在意義であります。

臨床研究では、日常診療データを活用した観察研究、田主丸研究・宇久島研究などの疫学研究、医師主導型介入研究、さらには腫瘍循環器領域の研究が着実に進展しており

ます。DPC データを用いたビッグデータ解析も深化し、統計専門家との協働のもと、より精緻な解析が可能となりました。しかし重要なのは、データの量ではなく、問いの質であります。いかなる問いを立てるかが、研究の価値を決定します。

基礎研究においても、日々の実験は決して華やかなものではありません。地道な作業の積み重ねの中に、次代へとつながる芽が潜んでいます。基礎研究の本質は、知の体系の中に新たな一石を投じることにあります。

研究は、社会の不確実性に対する一つの応答です。複雑で不安定な時代にあって、拙速に結論を求めるのではなく、思考を深め、多様な視点を統合し、対話を重ねる力を養う営みです。基礎から臨床へ、そして社会へと橋渡しするトランスレーショナルリサーチは、単なる研究手法ではなく、知を社会へ還元する責任の形であると考えております。

研究所とは、成果を競う場である前に、問いを共有する場であるべきです。多様な専門性が交差し、互いを尊重しながら議論を深める環境こそが、新たな知を生み出します。若手研究者が安心して挑戦できる土壌を整えることもまた、私たちの責務です。

これまで積み重ねてきた歩みを礎に、循環器病研究所は今後も「問い続ける姿勢」を大切にしていきたいと思います。成果の背後にある思索の深さこそが、真に持続可能な研究を支えると信じております。

皆様とともに、静かに、しかし確実に、知の歩みを重ねていきたいと思っております。
今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

循環器病研究所活動報告 2024

いつも循環器病研究所（循研）へのご支援を有難うございます。循研では「今ないものを世の中に」を理念として、循環器系病態の新たな理解と未来を担う医療人を世に送り出すことを目的に研究活動を行なっています。若手医師が主体となって研究に取り組み、その過程で自律性、論理的思考力、協働的価値創出力を身につけることは、循研の重要な使命の一つです。

循研ではこれまで、若手研究者が研究活動を通じて成長できる環境を整えるため、研究技術支援体制の充実や思考フレームワークの開発を進めてきました。研究初心者である若手医師が効率よく研究を進めるためには、実験技術の支援だけでなく、研究の方向性を論理的に整理するための思考支援が重要です。循研では病理解析、分子解析、細胞解析、モデル解析などの実験支援体制を整えるとともに、研究活動の進捗を共有しながら研究を前進させるサポートチーム体制を維持しています。これらの支援により、若手研究者が限られた時間の中でも研究成果を生み出し、自らの能力を高めていくことを目指しています。

循研の特徴的な取り組みの一つとして、若手研究者同士のディスカッションを通じて科研費申請書を改善する「循研ピアレビュー」を毎年開催しています。循研ピアレビューでは、循研で開発してきた思考フレームワーク「評価の構造」「価値の構造」「理解の構造」を用いて、研究課題の論理構造を可視化しながら議論を進めます。このような構造化されたピアレビューは全国的にも例が少なく、若手研究者が協力して研究課題の質を高める貴重な機会となっています。2024年度のピアレビューでは、循研メンバーに加えて医学生や循研外部の参加者も迎え、活発な議論が行われました。

循研ではまた、臨床医にとって研究経験がどのような意義を持つのかについて調査研究を進めています。心臓・血管内科（旧第3内科）同門の先生方を対象としたアンケート調査からは、どのような研究経験がどのような臨床力の獲得につながったのか、またその臨床力が現在どのような場面で発揮されているのかについて貴重な知見が得られました。これらの知見は久留米大学大学院医学研究科の理念である「臨床力をつける大学院」にも反映されており、現在その成果を日本医学教育学会の機関誌「医学教育」に投稿する準備を進めています。研究経験が臨床医としての能力形成にどのように寄与するのかを明らかにすることは、今後の医学教育のあり方を考える上でも重要であると考えています。

教育活動としては、循研ピアレビューで開発された思考フレームワーク「理解の構造」を活用した大学院授業「論文の解剖学（初級）」を開講しました。この授業では、学術論文の内容を単に読むのではなく、論文の論理構造を構造的に整理しながら理解することを目的としています。授業は完全オンライン形式で実施され、専門分野の異なる参加者が集まりました。受講生は事前課題に取り組んだうえで授業に参加し、提出された課題をもとにディスカッションを行うアクティブラーニング形式で授業を進めました。受講生は熱心に課題に取り組み、論文の理解を深める過程を通じて自律性、論理的思考力、協働的価値創出力を高めていきました。

現在、医学研究を取り巻く環境は大きく変化しています。臨床研修制度や専門医制度の変化により、若手医師が研究に触れる機会は必ずしも十分とは言えなくなっています。一方で、複雑化する医療課題に対応するためには、単に知識や技術を身につけるだけでなく、自ら問題を発見し、論理的に解決し、仲間と協働して新しい価値を生み出す能力がますます重要になっています。循研では、研究活動を通じてこれらの能力を育成することが臨床医の成長にもつながると考え、研究支援と教育活動を一体として発展させてきました。

社会貢献活動としては、市民公開講座「心臓と血管の話」を開催しました。講座では「子どもの心臓病と最新の治療」（久留米大学医学部小児科 須田憲治教授）、「急性大動脈解離ってなんですか？」（久留米大学医学部心臓血管外科 田山栄基教授）、「心臓リハビリテーションのお話」（久留米大学医学部心臓・血管内科 福本義弘教授）といった講演が行われました。多くの市民の方々にご参加いただき、循環器疾患に関する理解を深めていただく機会となりました。

循研を取り巻く研究環境や医療環境は今後も変化を続けると考えられます。そのような状況の中で、研究活動を通じて新たな知見を生み出すとともに、研究経験を通じて成長した医師を社会に送り出すことは、循研の重要な役割です。循研では研究・教育・社会貢献の活動を相互に関連させながら発展させることで、研究組織としての価値を高めるとともに、久留米大学および地域医療の発展に寄与することを目指しています。

このような活動を継続できているのも、皆様のご支援あればこそです。今後とも循環器病研究所へのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

久留米大学 循環器病研究所 教授 青木浩樹

心不全心筋症班

心不全心筋症班の研究テーマは（１）非心筋細胞における SOCS3（suppressor of cytokine signaling-3）と心筋リモデリングに関する研究、（２）虚血性心筋傷害と心筋梗塞後心筋リモデリングにおける interleukin (IL)-10 ファミリーサイトカイン IL-22 と IL-22 binding protein (IL-22BP) の役割に関する研究、（３）右室圧負荷による右心機能障害における IL-22 に関する研究である。

（１）非心筋細胞における SOCS3 と心筋リモデリングに関する研究

SM22-Cre マウスを用いて血管平滑筋特異的 SOCS3 ノックアウトマウス (SOCS3-smKO) を作成した。加齢に伴い SOCS3-smKO マウスは、野生型マウスに比べ、心重量が優位に増加するとともに、拡張不全、収縮不全と血圧の低下を呈すること、体重が優位に低下するとともに血中アルブミン濃度が優位に低く、interleukin-6 (IL-6) 濃度が優位に高いなどカヘキシー様となり、生後 6 ヶ月以降に優位に死亡率が高いことなどを明らかにした。さらに、SOCS3-smKO マウスに IL-6 を投与すると、心外膜や血管周囲の線維芽細胞優位に STAT3 のリン酸化が亢進していたことから、これらの表現型において、線維芽細胞内の JAK-STAT3 経路の制御が重要であることが示唆された（論文投稿準備中）。線維芽細胞における JAK-STAT 経路と SOCS3 の役割を明らかにするために、periostin-Cre マウスを用いて線維芽細胞特異的 SOCS3 ノックアウトマウスを作成した。現在、同マウスを用いて解析を進めている。

（２）虚血性心筋傷害と心筋梗塞後心破裂における IL-10 ファミリーサイトカイン IL-22 と IL-22BP の役割に関する研究

IL-22 は、免疫細胞ではなく上皮細胞を標的として STAT3 を活性化し組織保護効果を発揮する。冠動脈の結紮による心筋梗塞モデルにおいて、IL-22-KO マウスでは、野生型マウスに比べ、死亡率の上昇、心破裂発症率の上昇と梗塞範囲の拡大、細胞外マトリックス関連遺伝子の発現に優位な変化を認めることを報告している。可溶性 IL-22 受容体結合タンパク (IL-22BP) は IL-22 の活性を強力に抑制する。IL-22BP-KO マウスに冠動脈結紮による心筋梗塞モデルを作成したところ、IL-22BP-KO マウスでは、野生型マウスに比べ、梗塞後の心破裂の発症が、野生型マウスに比べ優位に抑制されることを明らかにし、その病態機序の解析を進めている。

(3) 右室圧負荷による右心機能障害における IL-22 に関する研究

右室リモデリングは右心不全患者の予後と関連する。右室圧負荷後の右室リモデリングにおける IL-22 の役割を明らかにするために、IL-22KO マウスに肺動脈 banding モデルを作成した。野生型マウスに比べ IL-22KO マウスにおいて、生存率が低下し、右室重量／左室重量比が顕著に増加し、右室拡大の進行、FAC（右室面積変化率）と TAPSE（三尖弁輪収縮期移動距離）の顕著な低下と三尖弁閉鎖不全発症率の顕著な増加を認めた。トランスクリプトーム解析を行ったところ、現在これらの表現型の発症機序について実験を進めている。右室負荷後リモデリングが亢進し右心不全が進行している IL-22KO マウスにおいて、野生型マウスに比べて、多くの細胞外マトリックス関連遺伝子の発現が低下していた。

心臓カテーテル治療班

最近注目されている狭心症の病態概念 ischemia non-obstructive coronary arteries (INOCA) の診断法の一つに、圧・温度センサー付きガイドワイヤーを用いた心臓カテーテル検査があります。この方法を用いて冠動脈の血流予備能や微小血管抵抗指数を算出することで、INOCAの病態の一つとされる冠微小循環障害 (coronary microvascular dysfunction) を診断し、治療に役立てることが出来ます。

CMDをきたす原因として、肥好心筋細胞や心筋組織内異常沈着物による心筋組織内毛細血管の物理的な圧迫作用があります。心アミロイドーシスのCMDについては既報が少ないため、我々は心エコーで左室肥大を有する患者を対象に、心臓カテーテル検査による冠動脈微小循環機能評価と心筋生検を行い、心アミロイドーシス患者と非心アミロイドーシス患者の2群間におけるCMDと病理学的特徴に関する調査を開始しました。80名の対象患者解析によって、心アミロイドーシス患者では微小血管抵抗指数の異常を示すCMDが有意に多い結果が得られました。現在、採取した心筋のコンゴレッド染色組織像を解析したアミロイド沈着率との関連性調査を進めています。

カテーテル検査法による冠動脈の微小循環機能を評価する方法やCMDの診断基準は世界的に確立していますが、同検査法による肺動脈の微小循環機能評価や機能障害の診断基準は未知の領域です。そこで我々は肺高血圧患者を対象に、冠微小循環機能評価法と同じ手法で肺動脈の微小循環機能を評価することができるのか、その評価を行う際に必要な血管拡張薬の至適負荷投与量を検証し、論文報告しました (Yamaji et al. PLOS

ONE 2024) 。 さらに肺動脈の微小循環機能評価検査値と患者背景および他の様々な検査測定値データから、肺動脈における微小血管抵抗指数と血中尿酸値や血中NT-proBNP値に正相関を認めました。肺動脈の微小循環機能をカテーテル検査で評価することが肺高血圧患者の予後評価につながるかもしれない有望な研究報告となりました。

臨床研究班

近年、心臓血管外科領域では、低侵襲治療の進歩が最も注目すべきテーマとなっている。成人弁膜症手術における MICS (Minimally Invasive Cardiac Surgery) は年々増加し、当院での手術症例数は 2022 年 15 例、2023 年 30 例、2024 年には 37 例と拡大し、成人開心術の約 2 割を占めるまでになった。右大腿静脈脱血・大腿動脈送血による体外循環を確立したうえで、右第 3 もしくは 4 肋間に 5~8cm の切開を加え、心停止下に手術を行う。いわゆる「鍵穴手術」のようなものである。胸骨正中切開と比較して創部感染や疼痛が少なく、回復の早さ、整容性の高さ、精神面への好影響が特徴である。安全性を担保しつつ、今後も適応は緩やかに拡大していくと考えられる。

同様に、大動脈弁狭窄症 (AS) に対する TAVI や大動脈疾患に対するステントグラフト治療も増加している。高齢 AS に対する TAVI は確立した治療法となり、2024 年は 63 例に施行 (2 年連続手術死亡 0)。かつては、全身麻酔でしばしば ECMO サポートも併用していたが、最近の大部分の症例は局所麻酔で施行し、透析症例への適応も進んでいる。また、対象例が動脈硬化の進行した高齢者でもあるため大腿動脈からのアクセス困難 (屈曲、狭窄など) 症例も少なくない。そのような Alternative approach が必要な際、かつては心尖部や上行大動脈を用いていたが、最近では鎖骨下動脈を選択する経験が増加し TAVI の低侵襲性がより生かされるようになっている。

大動脈ステントグラフト治療の潮流としては、かつては 75 歳未満の腹部大動脈瘤に対して Y-graft 置換術を第一選択としていた。しかし EVAR の低侵襲性 (両側鼠蹊部切開不要) を背景に、近年は若年者にも EVAR 適応を拡大し、早期社会復帰を重視する方針が増えつつある。将来的に瘤拡大が認められれば、その時点で Y-graft により根治を図るという戦略である。また、B 型解離後の偽腔拡大予防を目的とし、亜急性期 TEVAR にも今後積極的に取り組む予定である。

■ 臨床研究の取り組み

・HALT (Hypo-attenuated leaflet thrombosis) 関連研究

TAVI 後の人工弁周囲に生じる HALT (最近の高性能 CT で確認できる、人工弁尖が厚ぼったく造影剤が抜ける所見、血栓弁の初期病態と推察されている) の存在は近年注目されてきたが、生体弁 SAVR 後における HALT に関しては、まだ十分に知られていない。当院の症例を検討した結果、予想以上に高率 (約 3 割) であることが明らかとなった。ただ、TAVI における HALT 症例同様、多くは血行動態的に大きな問題はない一方で、時に抗凝固療法強化により圧較差が改善することもあり、動的な変化を見せた。HALT は CT 技

術の進歩により認識可能となった現象といえる一方、血栓症・血行動態・長期耐久性との関連は未確立であり、今後も検討を継続する。

・SAVR 後大動脈基部形態変化の検討

SAVR 後に人工弁劣化を来した症例に対する TAV in SAV は再開胸回避の有望な選択肢である一方、冠動脈閉塞リスクは無視できない。本研究では、SAVR 後に冠動脈開口部が弁輪側に約 4mm 近接する形態変化を確認し、さらに弁種や術式による差異についても検討を行った。

・その他、IgG4 関連大動脈瘤における画像モダリティの有用性（non-contrast MRI・18F-PET などにより組織性状評価を試みる研究を継続）、巨大褐色細胞腫手術における体外循環・血液浄化併用の有効性（循環制御・代謝安定化に着目したアプローチの検討）などの報告も行った。

■トランスレーショナルリサーチ

・Small non-coding RNA から読み解く血管疾患の病態研究と治療戦略の開発

外山研介先生による microRNA を用いた血管新生療法のトランスレーショナルリサーチを紹介する。外山先生はこれまで、Small non-coding RNA と血管疾患を主題とした研究に一貫して取り組んできた。基礎研究を通じて蓄積した知見の中から、その成果の一つである血管新生治療薬の開発をスピンアウトさせ、久留米大学インキュベーション施設内に株式会社 Walkable Future を設立し、創薬開発を推進している。株式会社 Walkable Future は、依然として有効な治療選択肢が限られている重症下肢虚血に対し、患者が足を失うことなく「自らの足で歩く人生」を取り戻せる社会の実現を目指している。具体的には、microRNA を標的としたアンチセンスオリゴヌクレオチドによる血管新生治療薬の開発に取り組んでいる。本核酸薬は低侵襲であり、医療現場での実装を見据えて設計されており、従来治療では十分な効果が得られなかった重症下肢虚血患者に対する新たな治療選択肢の提供を目的としている。「足を失うことなく、自らの人生を歩み続けてほしい」という理念を、科学的根拠に基づく医薬品として社会に実装することを使命とし、従来の「切断は避けられない」という常識を打破する「切断ゼロの医療」の実現に向けた革新を提供すべく活動を続けている。

現在、ヒトにおける治験実施を目標として、最終リード化合物であるアンチセンスオリゴヌクレオチドを用いた各種非臨床試験を CRO 機関にて進めており、臨床開発段階への移行に向けた取り組みを行っている（NEDO NEP 事業）。また、当該 microRNA の血管新生効果に関する詳細な分子メカニズム解析については、AMED の支援のもと久留米大学において研究を推進している（AMED 創薬総合支援事業）。

その他、microRNA が虚血後の骨格筋再生に関与する分子メカニズムの解明にも取り組まれている。DNA 複製過程に関わる重要分子群を制御する microRNA に着目しており、この microRNA は骨格筋に特異的に発現している。重症下肢虚血後の組織再生やサルコペニアにおいて重要な役割を担う可能性が指摘されており、基礎から臨床応用への可能性の検証を行なっている（科研基盤 C）。

また、大分大学心臓血管外科およびドイツ・Heinrich Heine 大学血管外科が共同で運用する国際的な大動脈瘤バイオバンクを久留米大学においても利用可能とする新たな研究体制を構築し（科研費基盤 C・分担）、新規知見の創出に取り組んでいる。その一環として、これまで外山先生が着目してきた miR-501-3p が腹部大動脈瘤の進展にも寄与することを、心臓血管外科の三根先生が明らかにし（後述）、現在 論文投稿に向けた準備を進めている。

さらに、ドイツ・Heinrich Heine 大学薬理学教室との共同研究にも取り組んでいる。胸部および腹部大動脈瘤の好発部位に隣接する椎体内骨髄ニッチにおいて炎症活動の顕著な変化が認められ、これが動脈瘤の病態形成と密接に関連していることが同教室の研究により示されている。現在、外山先生の研究チームは、当該病態制御機構における small non-coding RNA の役割解明を目的に共同で研究を進めている。

■ 大学院研究テーマ

・心外膜脂肪・慢性炎症と大動脈弁狭窄症・冠動脈疾患

押領司篤宣先生による研究では、大動脈狭窄症（AS）患者における心外膜脂肪の画像解析・組織解析を組み合わせ、慢性炎症との関連を検証した。近年、体内の脂肪組織、特に内臓脂肪が慢性炎症を促進し、臓器障害につながるということが明らかになっている。心外膜脂肪は冠動脈疾患（CAD）と関連する一方で、AS も炎症性疾患と考えられるようになってきている。本研究は、心臓周囲脂肪組織と AS との関連性を解明することを目的とした。重症 AS に対して大動脈弁置換術もしくは大動脈弁置換術と冠動脈バイパス術を併施した患者 30 名（AS 群）、冠動脈疾患に対して冠動脈バイパス術を施行した患者 12 名（CAD 群）を対象とした。コントロール群として、エコーや心電図で心疾患を否定した剖検例 10 例の心外膜脂肪組織を使用した。評価は、画像学的検討（術前 CT 検査で肺動脈分岐部から横隔膜面での心臓脂肪の体積を算出）、組織学的検討（外膜脂肪を採取し、CD68 および RAGE で免疫染色、マクロファージの有無、炎症性メディエーターの発現を確認）。その結果、AS 群及び CAD 群は、コントロール群と比較し、心外膜脂肪の増加を認めた。さらに免疫染色では心外膜脂肪組織中の CD68、RAGE 陽性細胞の増加より、AS 患者においても CAD 患者と同様に心外膜脂肪組織の炎症性変化を認める結果となった。また、CD68 と RAGE は疾患群の一部で共染色を示し、心外膜脂肪内の RAGE 陽

性のマクロファージの存在が指摘された。以上より、AS患者はCAD症例同様、心外膜脂肪に炎症性変化があることが証明された。現在、論文投稿に向けて統計学的検討の追加と校正を進行中である。

・ miR-501-3p と腹部大動脈瘤 (AAA) との関連

三根大輝先生の研究では、血管障害との関連が知られる miR501-3p と腹部大動脈瘤 (AAA) との関連性に関する検討である。miR-501-3p は血管障害や動脈硬化との関連が報告されているが、AAA との関連性はまだ十分に解明されていない。本研究では、AAA 患者の血中エクソソームおよび瘤壁組織における miR-501-3p 発現を測定し、AAA の存在や拡大との関連を検討した。血液解析ではAAA患者と非AAA対照から血中エクソソームmiRNAを抽出し、miR-501-3p を定量した。その結果、血中 miR-501-3p が低い群で AAA 症例が多くみられ、大動脈瘤のサイズが大きい傾向にあることが分かった。組織解析では、同一患者の瘤壁から最大径部と正常部に近い境界部を採取して比較したところ、最大径部で miR-501-3p が低下していた。また最大径部の miR-501-3p が低い症例ほど瘤径が大きく、臨床的に介入が検討される 55mm 以上の AAA が多い傾向を示した。以上より、血中ならびに動脈壁の miR-501-3p は一見 AAA の病勢と逆相関している結果であり、AAA の存在と進展を反映する候補分子でありうると考えられた。血中エクソソームを用いた病勢モニタリング指標 (血中 miR-501-3p の低下が動脈瘤進行と相関)、さらには病態制御の標的となる可能性が示唆された。本研究は血液と組織の両面から同一分子の変動を評価した点に特徴があり、結果については投稿準備中である。

分子病態研究班

大動脈チームでは大動脈疾患、とくに大動脈解離の分子病態解明を目的として研究を進めている。大動脈解離は突然発症し急速に大動脈壁が破壊される致死的疾患であり、発症前の病態を臨床的に観察することが困難であるため発症予測法や予防法は確立されていない。この未解明の病態を明らかにするため、当チームでは再現性の高いマウス大動脈解離モデルを用いて発症過程の分子機構を解析するとともに、ヒト大動脈組織の解析を組み合わせることで臨床病態との対応づけを進めている。

これまでの研究により、大動脈解離の発症過程では炎症応答、細胞増殖応答、細胞老化応答、免疫応答など複数の生体反応が時間的に連続して起こることが明らかになってきた。特に炎症応答に先行して細胞増殖応答が起こり、その後に細胞老化応答が誘導されること、さらに老化細胞が炎症性サイトカインを分泌することで炎症応答が増幅されることが示されている。これらの知見は、大動脈解離の発症に至る分子連鎖を理解する上で重要な手がかりとなっている。

免疫応答の観点からは、B細胞および免疫グロブリンの役割に着目した研究を進めている。ヒト大動脈解離組織では中膜断裂部位にB細胞の集簇が認められ、マウス解離モデルでは解離発症前の大動脈壁に免疫グロブリンが沈着することが示された。さらにB細胞欠損マウスでは解離発症が抑制され、免疫グロブリンの補充により再び解離が増悪することから、B細胞/免疫グロブリン系が解離病態を促進することが示唆された。

免疫グロブリンのシグナル伝達に関与する分子 Syk の役割についても検討を進めている。解離刺激後の大動脈では Syk の活性化が確認されるが、Syk 阻害薬を投与すると全身炎症は抑制される一方、大動脈局所の炎症応答が逆説的に増強し解離病態が悪化することが明らかになった。さらに細胞特異的 Syk 欠損マウスを用いた解析から、血管平滑筋細胞の Syk が解離病態に対して保護的に作用する可能性が示されている。

当チームでは個別分子の機能解析と並行して、網羅的解析による病態理解にも取り組んでいる。マウス解離モデルから得られた遺伝子発現データを統合解析し、約 2000 の解離関連遺伝子群を同定した。これらの遺伝子群の相互関係をベイズ推計に基づくネットワーク解析により解析した結果、細胞増殖、細胞接着・遊走、血管細胞分化、炎症応答など複数の生体反応を担う遺伝子群が特定された。さらに UMAP を用いたクラスタリング解析により、解離の増悪や抑制に関連する遺伝子群の探索を進めている。

当チームではマウスモデルによる分子介入研究とヒト組織解析を対応づけるとともに、個別分子の機能解析と網羅的データ解析を統合する研究戦略をとっている。大動脈解離では多くの分子反応が同時に進行するため、個々の分子研究のみでは病態の全体像を理解することは困難である。そこで網羅的解析により得られた知見を統合し、大動脈解離の分子病態を体系的に理解することを目指している。

当チームの目標は、大動脈解離という未開の病態領域において分子病態の「地図」を作成することである。この地図の中で解離発症に関わる分子経路を同定し、分子介入研究と網羅的解析を循環させることで知見を蓄積し、最終的にはヒト病態の理解と新たな治療戦略の開発につなげることを目指している。

川崎病心血管病変の成因、病態、長期予後および治療に関する研究

川崎病冠状動脈瘤の自然歴と非自然歴の解明: 川崎病心血管後遺症の長期予後の追跡調査として、1973 年より心血管造影を行い、2024 年までに 3000 例余の川崎病患者をフォローアップしている。巨大冠状動脈瘤は、遠隔期において、次第にその瘤の前後で狭窄を来し、虚血性心疾患へと進展する。これら虚血性心疾患を来した川崎病既往患者は、現在も九州全土から紹介されている。また、本邦での冠状動脈瘤新規発生患者を全国規模で登録する共同研究 (KIDCAR) に参加し、冠状動脈瘤が発症数年以内に、冠状動脈造影上正常化する「退縮」現象に関わる因子を解明した。

エピゲノム解析を用いた川崎病の病因究明と新規の診断、および治療感受性マーカーの開発: これまで川崎病患者のゲノムや単球を用いた分子生物学的研究は精力的になされてきたが、全容解明には至らず、重要な因子の 1 つである好中球に焦点をあてた報告は見逃されてきた。また、近年、様々な病態生理、疾患において、エピジェネティクス研究の重要性が増しているが、川崎病のエピゲノムに着目した研究はほとんどない。そこで急性期と治療前後での好中球を含む血球細胞の遺伝子発現変化とエピゲノムを解析することで、川崎病の病因究明と新規の診断、および治療感受性マーカーを明らかにすることを目的とした研究を継続している。

日本の多施設共同研究として、急性期の川崎病患者 1000 例以上を対象として、大量免疫グロブリン療法に繰り返して不応の症例を見つけるバイオマーカーを確定し、国際学会で発表した (American Heart Association 2024, Chicago, USA)。現在、本研究の論文作成中である。

川崎病後遺症としての冠状動脈瘤が年余を経てリモデリングし、狭窄や閉塞するメカニズムとして、我々は、冠状動脈や胸部大動脈壁に血管炎が起きていることを fluorodeoxy-glucose をトレーサーとしたポジトロンエミッショントモグラフィーで明らかにした (J Nucl Cardiol. 2023 Feb;30(1):264-275.)。第 14 回国際川崎病シンポジウム (Montreal, Canada) において、これについて発表し、海外の研究者と知見を共有した。

川崎病冠状動脈瘤の絶対的重症度評価される冠状動脈造影は、小児においては通常大腿動脈から施行されるが、川崎病後では合併症が多いことが知られている。これについて、5 歳以上であれば年少児であっても、橈骨動脈から施行可能であることを論文発表した (Pediatr Int 2024, doi: 10.1111/ped.15841)。

1, 原著

Shibao K, Shibata T, Kitamura C, Matushima Y, Yoshiga T, Yanai T, Homma T, Otsuka M, Murotani K, Fukumoto Y: Differential Hypoxia Risk in Cardiopulmonary Arrest Patients Undergoing Veno-Arterial Extracorporeal Membrane Oxygenation and IMPELLA Support.

ASAIO J. 2024 Dec 1;70(12):1017-1024. doi: 10.1097/MAT.0000000000002229.

Epub 2024 May 15.

Takemiya K, Wang S, Liu Y, Murthy N, Goodman MM, Taylor WR: Isothermal titration calorimetry analysis of the binding between the maltodextrin binding protein male of *Staphylococcus aureus* with maltodextrins of various lengths.

Biochem Biophys Res Commun. 2024 Feb 5;695:149467.

doi: 10.1016/j.bbrc.2023.149467. Epub 2024 Jan 4.

Suzuki T, Miyashita M, Kohno T, Rewley J, Igarashi N, Aoyama M, Higashitani M, Kawamatsu N, Kitai T, Shibata T, Takei M, Nochioka K, Nakazawa G, Shiomi H, Tateno S, Anzai T, Mizuno A: Bereaved family members' perspectives on quality of death in deceased acute cardiovascular disease patients compared with cancer patients - a comparison of the J-HOPE3 study and the quality of palliative care in heart disease (Q-PACH) study.

BMC Palliat Care. 2024 Jul 26;23(1):188. doi: 10.1186/s12904-024-01521-4.

Shinada K, Kohno T, Fukuda K, Higashitani M, Kawamatsu N, Kitai T, Shibata T, Takei M, Nochioka K, Nakazawa G, Shiomi H, Miyashita M, Mizuno A: Depression and complicated grief in bereaved caregivers in cardiovascular diseases: prevalence and determinants.

BMJ Support Palliat Care. 2024 Jan 8;13(e3):e990-e1000.

doi: 10.1136/bmjspcare-2021-002998.

Sadamatsu K, Kugai T, Eto Y, Muta M, Maeda T, Ishimatsu T, Shihara M, Fukumoto Y: Manual compression hemostasis using a hemostatic pad for the distal radial artery approach.

Cardiovasc Revasc Med. 2024 May 22:S1553-8389(24)00498-6.

doi: 10.1016/j.carrev.2024.05.028. Epub ahead of print. PMID: 38796319.

Yamashita Y, Morimoto T, Muraoka N, Shioyama W, Chatani R, Shibata T, Nishimoto Y, Ogihara Y, Doi K, Oi M, Shiga T, Sueta D, Kim K, Tanabe Y, Koitabashi N, Takada T, Ikeda S, Nakagawa H, Tsukahara K, Shoji M, Sakamoto J, Hisatake S, Ogino Y, Fujita M, Nakanishi N, Dohke T, Hiramori S, Nawada R, Kaneda K, Ono K, Kimura T, ONCO PE Trial Investigators: Rivaroxaban for 18 months versus 6 months in patients with cancer and acute low-risk pulmonary embolism: An open-label, multicenter, randomized clinical trial (ONCO PE trial).

Circulation. 2024 Nov 18. doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.124.072758.

Online ahead of print.

Fukumoto Y, Tada T, Suzuki H, Nishimoto Y, Moriuchi K, Arikawa T, Adachi H, Momomura S, Seino Y, Yasumura Y, Yokoyama H, Hiasa G, Hidaka T, Nohara S, Okayama H, Tsutsui H, Kasai T, Takata Y, Enomoto M, Saigusa Y, Yamamoto K, Kinugawa K, Kihara Y, SAVIOR-L Investigators: Chronic Effects of Adaptive Servo-Ventilation Therapy on Mortality and the Urgent Rehospitalization Rate in Patients Experiencing Recurrent Admissions for Heart Failure – A Multicenter Prospective Observational Study (SAVIOR-L).

Circ J. 2024 Apr 25;88(5):692–702. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0827.

Epub 2024 Apr 12.

Higuma T, Akashi JY, Fukumoto Y, Obara H, Kakuma T, Asaumi Y, Yasuda S, Sakuma I, Daida H, Shimokawa H, Kimura T, Iimuro S, Nagai R: Residual coronary risk factors associated with long-term clinical outcomes in patients with coronary artery disease treated with high- vs. low-dose statin therapy: REAL-CAD sub-study.

Circ J. 2024 May 24;88(6):995–1003. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0134.

Epub 2023 Jul 21.

Akase H, Okamura T, Nagoshi R, Fujimura T, Miyazaki Y, Takenaka H, Matsuyama T, Murasato Y, Yamawaki M, Ono S, Serikawa T, Hikichi Y, Norita H, Nakao F, Sakamoto T, Shinke T, Yano M, Shite J: Risk assessment of side branch compromise after coronary bifurcation stenting – A substudy of the 3D-OCT bifurcation registry.

Circ J. 2024 May 24;88(6):959–969. doi: 10.1253/circj.CJ-22-0723.

Epub 2023 Oct 14.

Chatani R, Yamashita Y, Morimoto T, Muraoka N, Shioyama W, Shibata T, Nishimoto Y, Ogihara Y, Doi K, Oi M, Shiga T, Sueta D, Kim K, Tanabe Y, Koitabashi N, Takada T, Ikeda S, Nakagawa H, Mitsuhashi T, Shoji M, Sakamoto J, Hisatake S, Ogino Y, Fujita M, Nakanishi N, Dohke T, Hiramori S, Nawada R, Kaneda K, Mushiake K, Yamamoto H, Kadota K, Ono K, Kimura T, ONCO PE Trial Investigators: Home treatment for active cancer patients with low-risk pulmonary embolism – A predetermined companion report from the ONCO PE trial.

Circ J. 2024 Mar 8. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0004. Online ahead of print.

Doi S, Kida K, Nasu T, Ishii S, Kagiya N, Fujimoto W, Kikuchi A, Ijichi T, Shibata T, Kanaoka K, Matsumoto S, Akashi YJ: Uptitration of sacubitril/valsartan and outcomes in patients with heart failure – insight from the REVIEW-HF registry.

Circ J. 2024 Dec 25;89(1):93–100. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0636.

Tahara A, Motoyama S, Malik S, Tahara N, Imaizumi T, Saremi F, Sanz J, Seto A, Narula J, Krishnan SC: Formation of the interatrial septum: Insights obtained from cardiac computed tomographic angiography.

Clin Anat. 2025 Mar;38(2):158–167. doi: 10.1002/ca.24223. Epub 2024 Oct 10.

Takaseya T, Itaya N, Sasaki KI, Sasaki M, Yokomizo M, Honda A, Oshita K, Azuma J, Fukumoto Y, Tayama E: Cusp overlap technique decreases paravalvular leakage

in self-expandable transcatheter aortic valve replacement.
Heart Vessels. 2024 Jan;39(1):48-56. doi: 10.1007/s00380-023-02307-z.
Epub 2023 Aug 22.

Imamura T, Fukumoto Y, Adachi H, Momomura SI, Yasumura Y, Hidaka T, Kasai T, Kinugawa K, Kihara Y; the SAVIOR-L investigators: Clinical advantages of reduced expiratory positive airway pressure setting in adaptive servo-ventilation therapy.
Heart Vessels. 2025 Mar;40(3):235-244.
doi: 10.1007/s00380-024-02457-8. Epub 2024 Sep 22.

Ogoyama Y, Abe M, Okamura K, Tada K, Katsurada K, Shibata S, Kai H, Rakugi H, Node K, Yokoi H, Kario K, Arima H: Effects of renal denervation on blood pressure in patients with hypertension: a latest systematic review and meta-analysis of randomized sham-controlled trials.
Hypertens Res. 2024 Oct;47(10):2745-2759. doi: 10.1038/s41440-024-01739-y.
Epub 2024 Jun 3.

Harada H, Nishiyama Y, Katoh A, Niiyama H, Iwaki A, Ohchi T, Sasaki M, Aoki Y, Okina N, Kai H: Heart failure treatment and serum carnitines in HFpEF and HFrEF with or without hypertension - A pilot study.
Hypertens Res. 2025 Jan 16. doi: 10.1038/s41440-025-02106-1.
Online ahead of print.

Nohara S, Mok Y, Van't Hof JR, Salameh M, Joshu CE, Platz EA, Florido R, Matsushita K: Subsequent risk of cancer among adults with peripheral artery disease in the community: the Atherosclerosis Risk in Communities (ARIC) Study.
Int J Cardiol. 2025 Jan 1;418:132577. doi: 10.1016/j.ijcard.2024.132577.
Epub 2024 Sep 19.

Aizawa Y, Kato TS, Iwasaki Y, Asai K: Arrhythmic Complications during COVID-19 Infection.
Intern Med. 2024 Oct 15;63(20):2721-2722.
doi: 10.2169/internalmedicine.4309-24. Epub 2024 Aug 10.

Kamiya K, Takei M, Nagai T, Miyoshi T, Ito H, Fukumoto Y, Obara H, Kakuma T, Sakuma I, Daida H, Iimuro S, Shimokawa H, Kimura T, Nagai R, Anzai T: Association between non-lipid residual risk factors and cardiovascular events in patients with stable coronary artery disease treated with pitavastatin: an observation from the REAL-CAD study.
J Atheroscler Thromb. 2024 Jan 1;31(1):61-80. doi: 10.5551/jat.64304.
Epub 2023 Aug 11.

Shibata T, Matsumoto S, Muramoto T, Matsukawa M: Comparison of the treatment status of patients with acute heart failure before and during the COVID-19 pandemic -

Observational cohort study using Japanese administrative data.
J Cardiol. 2024 Jul;84(1):47–54. doi: 10.1016/j.jjcc.2024.01.004.
Epub 2024 Feb 2.

Matsumoto S, McMurray JJV, Nasu T, Ishii S, Kagiya N, Kida K, Fujimoto W, Kikuchi A, Ijichi T, Shibata T, Ikeda T, Kanaoka K: Relevant adverse events and drug discontinuation of sacubitril/valsartan in a real-world Japanese cohort: REVIEW-HF registry.
J Cardiol. 2024 Aug;84(2):133–140. doi: 10.1016/j.jjcc.2023.11.005.
Epub 2023 Nov 22.

Tsujimura T, Mizote I, Ishihara T, Nakamura D, Okamoto N, Shiraki T, Itaya N, Takahara M, Nakayoshi T, Iida O, Hata Y, Nishino M, Ueno T, Nakatani D, Hikoso S, Nanto S, Mano T, Sakata Y, The COLLABORATION Investigators: Impact of baseline yellow plaque assessed by coronary angiography on vascular response after stent implantation.
J Cardiol. 2024 Sep;84(3):201–207. doi: 10.1016/j.jjcc.2024.04.004.
Epub 2024 Apr 18.

Shibata T, Mizuno A, Ohmori T, Oishi S, Nishizaki K, Nabeta T, Kishi T, Nagai T, Anzai T: Public awareness of palliative care for heart failure in Japan: A cross-sectional study.
J Cardiol. 2024 Oct;84(4):274–275. doi: 10.1016/j.jjcc.2024.05.012.
Epub 2024 Jun 3.

Togashi S, Wakabayashi R, Takehara A, Higashitsuji A, Ikarashi A, Nakashima N, Tanaka N, Nakano N, Shibata T, Oishi S, Sakashita A: A Web-based education program about primary palliative care for heart failure: A study protocol of wait-listed randomized controlled trial:
J Cardiovasc Nurs. 2025 Jan–Feb;40(1):31–38.
doi: 10.1097/JCN.0000000000001120. Epub 2024 Sep 30.

Hibi K, Gohbara M, Uemura K, Iwahashi N, Okada K, Iwata H, Fukumoto Y, Hiro T, Ozaki Y, Iimuro S, Sakuma I, Hokimoto S, Miyauchi K, Matsuyama Y, Nakagawa Y, Ogawa H, Daida H, Shimokawa H, Saito Y, Kimura T, Matsuzaki M, Kimura K, Nagai R: Serum mature and furin-cleaved proprotein convertase subtilisin/kexin type 9 levels and their association with cardiovascular events in statin-treated patients with cardiovascular disease.
J Clin Lipidol. 2024 Sep–Oct;18(5):e844–e854.
doi: 10.1016/j.jacl.2024.07.002. Epub 2024 Jul 17.

Murasato Y, Meno K, Mori T: Coronary intervention in chronic total occlusion in left main coronary artery.
J Invasive Cardiol. 2024 Mar 4. doi: 10.25270/jic/24.00027. Online ahead of print.

Nohara-Shitama Y, Mok Y, Ballew SH, Rebholz CM, Budoff MJ, Anderson C, Ishigami J, Blaha MJ, Matsushita K: Associations of Dietary Calcium and Phosphorus With Vascular and Valvular Calcification: The ARIC Study.

JACC Adv. 2024 May 20;3(7):100993.

doi: 10.1016/j.jacadv.2024.100993. eCollection 2024 Jul.

Iwata H, Miyauchi K, Naito R, Iimuro S, Ozaki Y, Sakuma I, Nakagawa Y, Hibi K, Hiro T, Fukumoto Y, Hokimoto S, Saito Y, Ogawa H, Shimokawa H, Daida H, Kimura T, Nagai R: Significance of Persistent Inflammation in Patients With Chronic Coronary Syndrome: Insights From the REAL-CAD Study.

JACC Adv. 2024 Jun 5;3(7):100996. doi: 10.1016/j.jacadv.2024.100996.

eCollection 2024 Jul.

Takahashi N, Kondo T, Ikari Y, Fukumoto Y, Hatake K, Masunari A, Nishibayashi S, Kageyama A, Fukuta Y, Tojo A: Real-world outcomes of ponatinib treatment in 724 patients with CML and Ph+ ALL: a post-marketing surveillance study with a special interest in arterial occlusive events in Japan.

Jpn J Clin Oncol. 2024 Aug 14;54(8):930-938. doi: 10.1093/jjco/hyae061.

Anegawa T, Sasaki K, Ishizaki Y, Negoto S, Oryoji A, Nakamura E, Otsuka H, Hiromatsu S, Fukumoto Y, Tayama E: Effects of pemafigrate on reducing oxidative stress and augmenting angiogenesis in ischemic limb tissue.

Kurume Med J. 2024 May 14;69(3.4):167-174.

doi: 10.2739/kurumemedj.MS6934006. Epub 2024 Jan 16.

Negoto S, Aoki H, Ohshima K, Nakamura E, Shojima T, Takagi K, Otsuka H, Takaseya T, Hiromatsu S, Tayama E: Cell type-specific relationships among immune cells in the human aortic dissection tissue.

Kurume Med J. 2024 Dec 10;70(3.4):145-155.

doi: 10.2739/kurumemedj.MS7034007. Epub 2024 Sep 2.

Fontana M, Berk JL, Gillmore JD, Witteles RM, Grogan M, Drachman B, Damy T, Garcia-Pavia P, Taubel J, Solomon SD, Sheikh FH, Tahara N, González-Costello J, Tsujita K, Morbach C, Pozsonyi Z, Petrie MC, Delgado D, Van der Meer P, Jabbour A, Bondue A, Kim D, Azevedo O, Hvitfeldt Poulsen S, Yilmaz A, Jankowska EA, Algalarrondo V, Slugg A, Garg PP, Boyle KL, Yureneva E, Silliman N, Yang L, Chen J, Eraly SA, Vest J, Maurer MS; HELIOS-B Trial Investigators and Collaborators: Vutrisiran in Patients with Transthyretin Amyloidosis with Cardiomyopathy.

N Engl J Med. 2025 Jan 2;392(1):33-44. doi: 10.1056/NEJMoa2409134.

Epub 2024 Aug 30.

Tahara A, Tahara N, Honda A, Igata S, Bekki M, Maeda-Ogata S, Koga Y, Nonaka R, Murotani K, Tanoue S, Yamagishi S, Fukumoto Y: Clinical and biochemical factors associated with amygdalar metabolic activity.

NPJ Aging. 2025 Jan 25;11(1):2. doi: 10.1038/s41514-025-00194-4.

Kanaoka K, Nasu T, Kikuchi A, Ijichi T, Shibata T, Kida K, Kagiya N, Fujimoto W, Ishii S, Iwanaga Y, Miyamoto Y, Matsumoto S: Risk stratification by renal function and NYHA class in patients with hypotension initiated on sacubitril/valsartan: a retrospective cohort study from 17 centres in Japan. *Open Heart*. 2024 Oct 21;11(2):e002764. doi: 10.1136/openhrt-2024-002764.

Tsukada Y, Nishiyama Y, Kishimoto M, Nago T, Harada H, Niiyama H, Katoh A, Matsuse H, Kai H: Low serum brain-derived neurotrophic factor may predict poor response to cardiac rehabilitation in patients with cardiovascular disease. *PLoS One*. 2024 Feb 6;19(2):e0298223. doi: 10.1371/journal.pone.0298223. eCollection 2024.

Yamaji K, Sasaki KI, Nakano M, Yoshiga T, Sasaki M, Sugiyama Y, Ishimatsu T, Itaya N, Nakayoshi T, Mitsutake Y, Tahara N, Fukumoto Y: Catheter-based examination for pulmonary microcirculatory function in patients with pulmonary hypertension. *PLoS One*. 2024 Oct 24;19(10):e0312609. doi: 10.1371/journal.pone.0312609. eCollection 2024.

Takiguchi H, Miura M, Shirai SI, Soga Y, Hanyu M, Sakaguchi G, Soga Y, Arai Y, Watanabe S, Kimura T, Takahama H, Yasuda S, Nakayoshi T, Fukumoto Y, Yaoita N, Shimokawa H, Sakatsume K, Saiki Y, Kaikita K, Tsujita K, Tamura T, Doman T, Yamashita M, Suzuki M, Eura Y, Kokame K, Hayakawa M, Matsumoto M, Okubo N, Sugawara S, Fujimaki SI, Kawate Y, Ando K, Horiuchi H: Mitral regurgitation is associated with similar loss of von Willebrand factor large multimers but lower frequency of anemia compared with aortic stenosis. *Res Pract Thromb Haemost*. 2024 May 3;8(4):102431. doi: 10.1016/j.rpth.2024.102431. eCollection 2024 May.

Hossain MS, Das A, Rafiq AM, Deák F, Bagi Z, Outlaw R, Sudhakar V, Yamamoto M, Kaplan JH, Ushio-Fukai M, Fukai T: Altered copper transport in oxidative stress-dependent brain endothelial barrier dysfunction associated with Alzheimer's disease. *Vascul Pharmacol*. 2024 Dec;157:107433. doi: 10.1016/j.vph.2024.107433. Epub 2024 Sep 22.

Sugiyama Y, Tahara N, Honda A, Koga Y, Yoshimura H, Bekki M, Tahara A, Maeda-Ogata S, Igata S, Mizushima Y, Murotani K, Kuromatsu R, Kawaguchi T, Fukumoto Y: Utility of liver stiffness for the classification of portopulmonary hypertension in precapillary pulmonary hypertension. *Int J Cardiol* (in press)

Kyogoku S, Adachi H, Enomoto M, Fukami A, Nohara Y, Morikawa N, Sato H, Takubo H, Shimoyama M, Fukumoto Y: Circulating Thrombospondin-2 Levels Reflect Hepatic Fibrosis Severity and Renal Dysfunction in a General Population: Uku Study. *Kurume Med J* (in press)

横山晋二：大学病院における医療安全管理の取り組み
久留米醫學會雜誌 87(7・8):193-198, 2024

福本義弘、藤本 茂、益子貴史、竹川英宏、角田 亘、宮脇郁子、牧田 茂：循環器病
に対する複合リハビリテーション：複数の合併症を有する患者での実施率調査
日本心臓リハビリテーション学会誌 (JJCR) 30 (2): 197-205, 2024

桑原政成、高田龍平、宮田大資、福内友子、明石直之、森川 渚、大内基司、青木雄平、
田中祥朗、藏城雅文、丸橋達也、田中敦史、水田栄之助、松隈祐太、西宮健介、田中仁
啓、大谷直由、森田美穂子、篠原啓介、山内高弘、市田公美、久留一郎、阿部弘太郎：
尿酸と各疾患との関わり：最新知見のまとめ
The Role of Uric Acid in Various Diseases: A Summary of Recent Studies Update
痛風と尿酸・核酸 (in press)

<Editorial>

Fukumoto Y: Impact of female sexual dysfunction on cardiovascular diseases.
Eur J Prev Cardiol. 2024 May 11;31(7):780-781. doi: 10.1093/eurjpc/zwae051.

Kai H: Shadow left by COVID-19 pandemic on the future.
Hypertens Res. 2024 Oct;47(10):2917-2919. doi: 10.1038/s41440-024-01789-2.

Adachi H: Relation between low birth weight or maternal obesity during pregnancy
and cardiovascular risk factors.
Hypertens Res. 2024 Nov;47(11):3077-3078. doi: 10.1038/s41440-024-01901-6.
Epub 2024 Sep 19.

Fukumoto Y: Pathophysiology and treatment of pulmonary arterial hypertension.
Int J Mol Sci. 2024 Jan 18;25(2):1166. doi: 10.3390/ijms25021166.

<Letter to the Editor>

Sadamatsu K, Fukumoto Y: Predictors for radial artery occlusion in distal radial
approach.
JACC Cardiovasc Interv. 2024 Apr 22;17(8):1065. doi: 10.1016/j.jcin.2024.02.017.

<Design paper>

Nishi M, Miyamoto Y, Iwanaga Y, Kanaoka K, Sumita Y, Ishihara M, Katamura M, Kohsaka
S, Nakayama M, Node K, Bando YK, Hirao Y, Fukuda K, Matoba T, Fukumoto Y, Matoba
S; JROAD Investigators: Hospitalized patients, treatments, and quality of care
for cardiovascular diseases in Japan - outline of the Nationwide JROAD
Investigation.
Circ J. 2024 Nov 19. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0704. Online ahead of print.

Kono T, Takagi K, Takaseya T, Fukuda T, Saku K, Zaima Y, Shojima T, Arinaga K,
Tayama E: Early thrombus formation including hypo-attenuated leaflet thrombosis
after surgical bioprosthetic aortic valve replacement

Gen Thorac Cardiovasc Surg 72(9) : 568-576.
doi: 10.1007/s11748-024-02010-4. Epub 2024 Feb 26.

Takaseya T, Itaya N, Sasaki K, Sasaki M, Yokomizo M, Honda A, Oshita K, Azuma J, Fukumoto Y, Tayama E : Cusp overlap technique decreases paravalvular leakage in self-expandable transcatheter aortic valve replacement
Heart and Vessels 39 (1) : 48-56.
doi: 10.1007/s00380-023-02307-z. Epub 2023 Aug 22.

Takagi K, Arinaga K, Takaseya T, Otsuka H, Shojima T, Kono T, Zaima Y, Saku K, Oryoji A, Tayama E : Mitral valve repair using a semi-rigid posterior band: a 10-year Japanese single-center experience of 244 patients
Journal of Thoracic Disease 16 (1) : 333-343.
doi: 10.21037/jtd-23-1486. Epub 2024 Jan 29

Inoue T, Takase R, Uchida K, Kodo K, Suda K, Watanabe Y, Yoshiura K, Kunimatsul M, Ishizaki R, Azuma K, Inai K, Muneuchi J, Furutani Y, Akagawa H, Yamagishi H. The c.1617del variant of TMEM260 is identified as the most frequent single gene determinant for Japanese patients with a specific type of congenital heart disease. J Hum Genet. 2024;69(5):215-222.

Maeda Y, Suda K, Inoue T, Kagiya Y, Takase R, Koteda Y. Selective coronary arteriography via transradial access in young children. Pediatr Int 2024;66(1):e15841. doi: 10.1111/ped.15841.

Vargas-Acevedo C, Mejia E, Kagiya Y, Soszyn N, Zablah JE, Morgan GJ. Use of a mechanical crimper for mounting covered stents in aortic coarctation. Progress in Pediatric Cardiology. 2024;74:101730

喜瀬広亮、金 成海、松井彦郎、犬塚 亮、芳本 潤、青木寿明、加藤温子、藤本一途、伊吹圭二郎、近藤麻衣子、長友雄作、隈丸 拓、宮田裕章、原 英彦、須田憲治、西川浩、杉山 央、富田 英、矢崎 諭、小林俊樹、大月審一：2020年における先天性心疾患、川崎病および頻拍性不整脈に対するカテーテルインターベンション・アブレーション全国集計：～日本先天性心疾患インターベンション学会レジストリー（JCIC-Registry）からの年次報告～ J JCIC 2024;8(2)；25-34.

2, 著書

甲斐久史：二次性高血圧症、今日の治療指針 2024 年度版、福井次矢、高木 誠、小室一成編、医学書院、東京：369-371, 2024. 1

福本義弘：心不全、心臓手術後の心臓リハビリテーション、今日の治療指針 2024 年版、福井次矢、高木 誠、小室一成編、医学書院、東京：440-441, 2024. 1

本間丈博：VA-ECMO、心原性ショック 最強の教科書、朔 啓太編、メディカルビュー社、東京：172-181, 2024

加藤倫子：移植後グラフト機能不全 (Primary graft dysfunction : PGD) のリスク・診断・治療、心臓移植「後」診療の指針-伴走する医療者のためのガイドマップ、小野 稔、北風政史監修、加藤倫子編、メディカルサイエンスインターナショナル社、東京：51-54, 2024

大橋陽子、庵地雄大、加藤倫子：移行期医療、心臓移植「後」診療の指針-伴走する医療者のためのガイドマップ、小野 稔、北風政史監修、加藤倫子編、メディカルサイエンスインターナショナル社、東京：74-83, 2024

加藤倫子：除神経と神経再分布、心臓移植「後」診療の指針-伴走する医療者のためのガイドマップ、小野 稔、北風政史監修、加藤倫子編、メディカルサイエンスインターナショナル社、東京：84-87 2024

加藤倫子：維持免疫抑制療法、心臓移植「後」診療の指針-伴走する医療者のためのガイドマップ、小野 稔、北風政史監修、加藤倫子編、メディカルサイエンスインターナショナル社、東京：118-133, 2024

加藤倫子：非侵襲的な拒絶反応モニタリング (画像診断)、心臓移植「後」診療の指針-伴走する医療者のためのガイドマップ、小野 稔、北風政史監修、加藤倫子編、メディカルサイエンスインターナショナル社、東京：186-195, 2024

加藤倫子：非侵襲的な拒絶反応モニタリング (末梢血バイオマーカーと諸外国の現状)、心臓移植「後」診療の指針-伴走する医療者のためのガイドマップ、小野 稔、北風政史監修、加藤倫子編、メディカルサイエンスインターナショナル社、東京：196-199, 2024

加藤倫子：除神経心の心拍応答から見たリハビリテーション、運動・競技スポーツ、性生活、心臓移植「後」診療の指針-伴走する医療者のためのガイドマップ、小野 稔、北風政史監修、加藤倫子編、メディカルサイエンスインターナショナル社、東京：264-267, 2024

神谷千津子、加藤倫子：妊娠・出産、心臓移植「後」診療の指針-伴走する医療者のためのガイドマップ、小野 稔、北風政史監修、加藤倫子編、メディカルサイエンスインターナショナル社、東京：283-291, 2024

加藤倫子：移植後の原疾患再発、心臓移植「後」診療の指針-伴走する医療者のためのガイドマップ、小野 稔、北風政史監修、加藤倫子編、メディカルサイエンスインターナショナル社、東京：323-329, 2024

加藤倫子：心臓再移植、心臓移植「後」診療の指針-伴走する医療者のためのガイドマップ、小野 稔、北風政史監修、加藤倫子編、メディカルサイエンスインターナショナル社、東京：330-335, 2024

福本義弘、古賀祐樹、杵山陽一、田原宣広：肺血管疾患 肺高血圧症 治療、動脈・静脈の疾患 2024 (下) (日本臨牀 82(増刊号 5))、北園孝成編、日本臨牀社、東京：157-162, 2024. 7

廣松伸一：動脈・静脈の疾患 2024(上)-最新の診断・治療動向- 1. 総論 悪性腫瘍 日本臨牀 82 (4) : 98-103, 2024

須田憲治 第Ⅱ章 診断・治療《総論》 E. 臨床検査 7 心血管造影 pp 155-159. 編集 日本小児循環器学会 小児・成育循環器学 改訂第2版 診断と治療社 2024

高瀬隆太、須田憲治 特集 小児の鉄代謝 2. 小児心不全と鉄代謝 小児科 65 (9), 830-834, 2024 金原出版

3, 総説

Kai H: Prevention of atherosclerotic cerebro-cardiovascular disease: a key objective in blood pressure management for coronary artery disease in East Asia. *Hypertens Res.* 2025 Feb;48(2):830-832. doi: 10.1038/s41440-024-01966-3. Epub 2024 Oct 30.

Morimatsu Y*, Tahara N*, Okamoto M*, Bekki M, Tahara A, Eto Y, Kugai T, Koga Y, Maeda-Ogata S, Honda A, Igata S, Zaizen Y, Tanoue S, Hoshino T, Ishitake T, Fukumoto Y: Sarcoidosis-associated pulmonary hypertension. *Medicina (Kaunas).* 2025 Feb 14;61(2):342. doi: 10.3390/medicina61020342.
*co-first author

大江征嗣：どう変わった？心房細動治療の新時代 —過去の認識を変えた今日の診断・治療イノベーション— 久留米醫學會雑誌 87 (1/3) : 1-7, 2024

伊藤章吾、福本義弘：2023 年度日本心脈管作動物質学会若手研究者交流シンポジウムを開催して 血管 47(2) : 21-24, 2024

千葉一幸、加藤倫子：多職種で「ミル」循環器疾患カンファレンスでの理学療法士の「ミル」とは 心臓リハビリテーション 30(1) : 21-24, 2024

福本義弘：心臓リハビリテーション - 心筋梗塞・心不全など- 診断と治療 112 (6) : 711-716, 2024

甲斐久史：高齢者の心不全対策としての高血圧診療 日本臨牀 82 (4) : 583-588, 2024

Onitsuka S, Tanaka A, Otsuka H, Shintani Y, Kanamoto R, Negoto S, Tayama E: General Information and Applications of Najuta Fenestrated Stent Grafts for Aortic Arch Aneurysms
J. Clin. Med. 14 (1) : 36. doi: 10.3390/jcm14010036.

廣松伸一：日本人における静脈血栓塞栓症の実態 静脈学 35 (1) : 75-82, 2024

Kagiyama Y, Kenny D, Hijazi ZM. Current status of transcatheter intervention for complex right ventricular outflow tract abnormalities. *Glob Cardiol Sci Pract.* Jan 3 2024;2024(1):e202407.

4, 国際学会

American Heart Association EPI|Lifestyle Scientific Sessions 2024 ,Chicago, USA, March 18-21, 2024

Poster session

Nohara-Shitama Y, Yoshimura H, Morikawa N, Fukami A, Enomoto M, Adachi H, Fukumoto Y: Associations between serum insulin-like growth factor (IGF)-1 level and cognitive function and atherosclerosis in a Japanese general population: The Tanushimaru study

Morikawa N, Enomoto M, Fukami A, Sato H, Yoshimura H, Adachi H, Fukumoto Y: The longitudinal association between dietary Vitamin K intake and cognitive function in the general population - Tanushimaru cohort study -

The American Society of Echocardiography, 31st Annual Scientific Session (ASE 2024), Portland, USA, June 14-16, 2024

Abstract Poster Session

Igata S, Bibby D, Fang Q, Rasmussen W, Abraham T, Olgin J, Schiller NB: Left atrial reservoir strain reflects minimum left atrial volume at end-diastole

Lee C, Fang Q, Igata S, Bibby D, Rasmussen W, Abraham T, Schiller NB: Influence of 4D right atrial volumes and gender on global and segmental right atrial strain

7th World Symposium on Pulmonary Hypertension, Barcelona, Spain, June 29 - July 1, 2024

Poster Session

Sugiyama Y, Shimokawahara H, Miyagi A, Suetomi T, Matsubara H: Non-cardiovascular non-obstetric surgery in pre-capillary pulmonary hypertension at a single center in Japan

32th Annual Scientific Congress Hong Kong College of Cardiology, Hong Kong, July 5-7, 2024

Otsuka M, Katsuki T, Hayashida M, Nishikido A, Matsusima Y, Takata Y, Yanai T,

Homma T, Nohara S, Fukumoto Y: A case of pediatric out-of-hospital cardiac arrest due to pulmonary thromboembolism with extracorporeal cardiopulmonary resuscitation

Hayashida M, Nohara S, Yamakawa R, Araki S, Matsushima Y, Nishikido A, Yanai T, Ishimatsu T, Homma T, Otsuka M, Fukumoto Y: A case of inhaled nitric oxide proved effective for a patient with a patent foramen ovale undergoing extracorporeal membrane oxygenation and Impella (ECPELLA) management

European Society Cardiology (ESC) Congress 2024, London, United Kingdom, August 30 - September 2, 2024

Moderated ePosters

Shibao K, Yasukawa H, Akagaki D, Okabe K, Shima K, Fukumoto Y: Interleukin-22 inhibits right ventricular remodelling by a unique mechanism in a pulmonary artery constriction model

Nakao E, Aoki A, Majima R, Hashimoto Y, Shibata R, Hayashi M, Ohno-Urabe S, Furusho A, Nishida N, Hirakata S, Fukumoto Y: The role of cellular senescence in aortic dissection

Late breaking (Oral)

Fontana M, Berk JL, Gillmore JD, Witteles R, Grogan M, Drachman B, Damy T, Garcia-Pavia P, Solomon SD, Tahara N, Van der Meer P, Yang L, Eraly SA, Boyle KL, Vest J, Maurer MS: Primary results from HELIOS-B, a phase 3 study of vutrisiran in patients with transthyretin amyloidosis with cardiomyopathy

CARDIOMERSION 2024 14TH Annual Global Conference, Chandigar, India, September 14-19, 2024

Evening Special Seminar/Symposium

Kato TS: Management of Heart failure and Transplant Evaluation in Asia

Global Cardio Oncology Summit 2024, Minneapolis, USA, September 22- 24, 2024

Poster session

Morikawa N, Enomoto M, Fukami A, Nohara S, Nohara Y, Shibata T, Shibao K, Ishii K, Fukumoto Y: Trend of yearly prevalence and seasonal variation of cardiovascular diseases with cancer in Japan

AICT-Asia PCR 2024, Singapore, October 4-5, 2024

How should I treat calcified lesion from the intracoronary imaging. view? in collaboration with the Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics and the Interventional Cardiovascular Society of Malaysia

Nakayoshi T: Guidewire malposition into the subintima in the severe calcified lesion

Bifurcation strategies in each country

Nakayoshi T: Cases in which the Zinral Balloon was useful

SECC-Best of SCCM Congress 2024, Taipei, Taiwan, October 5-6, 2024

Poster Session

Matsushima Y, Shibata T, Shibao K, Oobu K, Nishikido A, Yamakawa R, Hayashida M, Yanai T, Ishimatsu T, Homma T, Nohara S, Otsuka M, Fukumoto Y: Association of mechanical chest compression with intrathoracic bleeding complication in patients receiving ECPR

Hayashida M, Yamakawa R, Araki S, Nishikido A, Matsushima Y, Yanai T, Ishimatsu T, Homma T, Nohara S, Otsuka M, Fukumoto Y: Serum ketone body ratio can be a prognosis predictor of the Post Cardiac Arrest Syndrome (PCAS)

SICOM & AOCO 2024, Seoul, Korea, October 24-26, 2024

Symposium “CKHEPA: Health Promotion of People Living with Obesity”

Fukumoto Y: Cardiovascular Health in People Living with Obesity

The American Heart Association (AHA) Scientific Sessions 2024, Chicago, USA,
November 16-18, 2024

Abstract Poster Session

Shibata T, Mok Y, Ballew H.S, Tanaka H, Matsushita K: Prognostic value of femoral-ankle pulse wave velocity for cardiovascular outcomes in older adults: The Atherosclerosis Risk in Communities (ARIC) study

Moderated Digital Poster

Shibao K, Yasukawa H, Akagaki D, Okabe K, Shima K, Fukumoto Y: Interleukin-22 Prevents Right Ventricular Remodeling and Tricuspid Regurgitation during Pressure Overload through a Unique Mechanism

Matsushima Y, Shibata T, Shibao K, Nishikido A, Yamakawa R, Hayashida M, Yanai T, Ishimatsu T, Homma T, Nohara S, Otsuka M, Fukumoto Y: Mechanical chest compression increases intrathoracic bleeding complication in patients receiving extracorporeal cardiopulmonary resuscitation

Sugiyama H, Kato TS, Ito M, Ito J, Watanabe K, Tanabe S, Takamura C, Terashima M: Discrimination of fabry disease and cardiac amyloidosis using cardiac MRI and echocardiography: A comprehensive analysis

The Society for Redox Biology and Medicine' s (SFRBM) 31st Annual Conference,
Savannah, USA, November 20-23, 2024

Featured Poster Symposia and Poster Session

Yamamoto M, Ash D, Varadarajan S, Zaidi SA, Rojas M, Xu Z, McMenamin M, Kelley S, Caldwell RB, Fukai T, Ushio-Fukai M: Novel role of copper uptake transporter CTR1 in retinal ischemia-reperfusion injury

10th Asian Preventive Cardiology and Cardiac Rehabilitation Conference, Hong Kong,
November 22-24, 2024

Poster

Nakashima N, Fukumoto Y: Psychological support for patients with chronic heart failure and pulmonary hypertension

AATS Aortic Symposium, New York, USA, April 25-26, 2024

ポスター

Imai S, Otsuka H, Onitsuka S, Tanaka A, Kanamoto R, Shintani Y, Shojima T, Takagi K, Takaseya T, Hiromatsu S, Tayama E : Utility of intraoperative Motor Evoked Potential monitoring in thoracic endovascular aortic repair

The International Society for Mechanical Circulatory Support: ISMCS 2024, 2024
年11月13~15日: 宇都宮

ポスター

Takagi K, Shojima T, Saku K, Kono T, Zaima Y, Fukuda T, Mine H, Arinaga K, Tayama E : Outcomes of IMPELLA-supported Coronary Artery Bypass Grafting for Acute Coronary Syndrome Complicated by Cardiogenic Shock

The 25th Congress of the Asian Society for Vascular Surgery (ASVS2024) , Bangkok,
December 4-6, 2024

Oral

Nakamura K, Kanamoto R, Negoto S, Shintani Y, Otsuka H, Hiromatsu S, Tayama E : Endovascular embolization for the treatment of abdominal aortic aneurysm with Takayasu' s arteritis

Miyazaki Y, Kanamoto R, Negoto S, Shintani Y, Otsuka H, Hiromatsu S, Tayama E : Surgical outcomes of late open conversion following endovascular aneurysm repair in our institution

Negoto S, Otsuka H, Tahara N, Kanamoto R, Shintani Y, Hiromatsu S, Tayama E : Characterization of Inflammatory Abdominal Aortic Aneurysm with Diffusion Weighted Magnetic Resonance Imaging and FDG-PET/CT

-The 10th Vietnam congress of congenital heart disease, Ho Chi Minh, Vietnam,
January 17-19, 2024

Suda K: Large ASD

Kagiyama Y: Heart block after transcatheter ASD closure

JCK Asian Pacific Heart Forum, 2024年7月12~13日：福岡

Kagiyama Y: Diameter of the carotid, axillary, and femoral arteries in infants less than 2.5kg of body weight

14th International Kawasaki disease symposium (IKDS), Montreal, Canada, August 26-29, 2024

Suda K: PET nuclear scans of coronary arteries. Cardiac Imaging of CAA Follow-up

57th annual meeting of the association for European paediatric and congenital cardiology, May 8-11, 2024 (Porto, Portugal)

Kiyomatsu K, Suda K, Yamakawa Y, Tsuda K, Maeda Y, Sasaki M, Takase R, Teramachi Y, Iemura M: Non-contrast closure of patent arterial duct using intracardiac echocardiography

Annual meeting of the American Heart Association, Chicago, USA, November 16-18, 2024

Yoshikane Y, Fukazawa R, Makoto W, Takeda A, Takatsuki S, Hirono K, Kato T, Ikeda I, Kobayashi N, Suda K, Nagata H, Imanaka-Yoshid K: Development of a biomarker to predict refractory cases in Kawasaki disease patients -towards the development of diagnostic kit-

第69回日本人類遺伝学会 2024年10月10日：札幌

Takase R, Kiyomatsu K, Kagiyama Y, Teramachi Y, Iwanaga A, Hashikawa K, Fukui K, Murota H, Nakama T, Suda K, Watanabe Y: 「A case of a 9-year-old girl with hypertension following Kawasaki disease, later diagnosed with pseudoxanthoma elasticum (PXE)」

5, 国内学会

第 36 回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会 (2024 年 1 月 12～13 日：福岡)

熱血教室

本間丈博：MCS の A to Z

一般演題

村里嘉信、浦祐次郎、富士本悠吾、目野恭平、森信太郎、小村聡一郎、森 隆宏、竹中克彦、井上修二郎：近位病変閉塞に伴う冠動脈バイパス機能不全による急性冠症候群に対し、石灰化破碎術を施行した一例

第 344 回日本内科学会九州地方会 (2024 年 1 月 27 日：福岡)

一般演題

國崎 湧、江藤成顕、日野昭宏、青木裕司、大塚裕之、大坪 仁、福本義弘：ロイス・ディーツ症候群に大動脈疾患を合併した 1 例

江藤成顕、國崎 湧、日野昭宏、青木裕司、大坪 仁、福本義弘：学校検診で心拡大を指摘された無症候性の部分肺静脈還流異常症の 1 例

第 17 回日本性差医学・医療学会学術集会 (2024 年 1 月 27～28 日：広島)

企画シンポジウム 5 “血栓症の性差”

福本義弘：癌と静脈血栓症・心血管病：性差の観点を含めて

第 16 回福岡県医学会総会 (2024 年 2 月 4 日：福岡)

一般演題 (ポスター)

青木直登、香月太郎、林田未有、西木戸文、松島慶央、高田優起、楊井俊之、柴田龍宏、大塚麻樹、本間丈博、福本義弘：Our experience with VA-ECMO secondary transport for refractory cardiogenic shock

第 57 回日本痛風・尿酸核酸学会総会 (2024 年 2 月 29 日～3 月 1 日：鳥取)

シンポジウム 2 “痛風・尿酸核酸領域のアップデート～最近の論文まとめ読み～”

森川 渚：尿酸と痛風

第 11 回日本心血管脳卒中学会学術集会 (2024 年 3 月 6 日 : 横浜)

シンポジウム 1 “高血圧をどう診るか”

甲斐久史: 心血管病の降圧療法—厳格降圧を“すべき理由”探しから“緩める理由”探しへ (招待講演)

第 88 回日本循環器学会学術集会 (2024 年 3 月 8~10 日 : 神戸)

会長特別企画 18 “複合疾患および回復期・維持期の心臓リハビリテーション: 第二期循環器病対策推進基本計画に向けて”

福本義弘: 複数の合併症を有する心疾患患者に対する複合リハビリテーションのアンケート調査

Special Session 6 “Novel Findings in Aortic Aneurysm & Dissection”

Aoki H: Deciphering Inflammatory Regulation in Aortic Dissection: Insights from Human and Mouse Studies

チーム医療セッション教育講演 3 “たばこ吸っちゃダメなのなあぜなあぜ?”

大江征嗣: 禁煙時の体重増加: 健康パラドックスに迫る

一般演題 (ポスター)

Ohno-Urabe S, Aoki H, Furusho A, Hashimoto Y, Nakao E, Shibata R, Nishida N, Ito S, Majima R, Fukumoto Y: B cells and Immunoglobulins promote aortic dissection in mice

Morikawa N, Enomoto M, Fukami A, Sato H, Yoshimura H, Adachi H, Fukumoto Y: The longitudinal association between dietary Vitamin K intake and cognitive function in the general population - Tanushimaru cohort study -

Shibata R, Aoki H, Ohno-Urabe S, Nakao E, Hashimoto Y, Majima R, Furusho A, Nishida N, Hirakata S, Fukumoto Y: Role of spleen tyrosine kinase (Syk) in pathogenesis of aortic dissection

Nakao E, Aoki H, Majima R, Hashimoto Y, Shibata R, Hayashi M, Ohno-Urabe S, Furusho A, Nishida N, Hirakata S, Fukumoto Y: The role of cellular senescence in aortic dissection

Shibao K, Yasukawa H, Akagaki D, Okabe K, Shima K, Fukumoto Y: Interleukin-22 deficient mice exhibit higher mortality rate, progressive right ventricular remodeling and tricuspid regurgitation following pulmonary artery constriction

Iwaki A, Kimura T, Ogata K, Kudo T, Nishihira K, Ashikaga K, Kuriyama N, Shibata Y: Should the infarct related artery be revascularized simultaneously with rupture repair in the patients with ventricular septal rupture?

学生・研修医セッション：JCS EARLY CAREERCHAMPIONSHIP

高野友晴、古野晶子、眞島涼平、小田隆太郎、伊藤章吾、佐々木雅浩、本多亮博、石松高、高橋甚彌、西田憲史、板家直樹、福本義弘：重症肺動脈弁狭窄症に ASD を合併した無症状の高齢男性の 1 症例

第 12 回筑後地域救急医療研究会学術集会（2024 年 3 月 9 日：久留米）

一般演題

西木戸文、香月太郎、林田未有、松島慶央、高田優起、楊井俊之、柴田龍宏、大塚麻樹、本間丈博、福本義弘、高須 修：久留米市の小学校で実施した心肺蘇生講習会について教育現場からのフィードバック

本間丈博、松島慶央、高田優起、楊井俊之、柴田龍宏、大塚麻樹、福本義弘、高須 修：筑後地域における心原性ショック患者に対する ECMO secondary transport の取り組み

本間丈博、松島慶央、高田優起、楊井俊之、柴田龍宏、大塚麻樹、福本義弘、高須 修：当院における心原性心肺停止症例に対する ECPR の成績

根引ひとみ、川口祐一郎、本間丈博、香月与志夫：重症心疾患患者に対する ECMO 早期確立を目指した ECMO delivery の取り組みにおける症例報告と今後の展望について

野村駿介、一関秀一郎、井手智規、本間丈博：難治性 VF の長距離搬送症例

第 51 回日本集中治療医学会学術集会 (2024 年 3 月 14~16 日 : 札幌)

一般演題 (ポスター)

楊井俊之、香月太郎、林田未有、西木戸文、松島慶央、高田優起、柴田龍宏、大塚麻樹、本間丈博、福本義弘、高須 修 : 早期治療介入により良好な経過をたどった免疫チェックポイント阻害薬関連心筋炎の一症例

林田未有、香月太郎、西木戸文、松島慶央、高田優起、楊井俊之、柴田龍宏、大塚麻樹、本間丈博、福本義弘、高須 修 : 循環器救急治療の限界と緩和ケアの選択 : 意思決定の難しさを伴う症例報告

山香 修、本間丈博、吉田圭介、内村鴻一、河村将熙、天神原崇、山下典雄、高須 修 : 当院の日勤帯と夜勤帯による ECPR の質の評価 - 臨床工学技士の勤務体制の観点から

優秀セッション

今村勝博、香月太郎、林田未有、松島慶央、高田優起、柴田龍宏、大塚麻樹、本間丈博、福本義弘、高須 修 : PFO を有する ECPPELLA 症例において iNO が有効であった症例

日本心エコー図学会第 35 回学術集会 (2024 年 4 月 19~21 日 : 姫路)

一般演題 (口演)

本多亮博、田原宣広、緒方詔子、戸次宗久、古賀祐樹、杵山陽一、福本義弘 : 早期のタファミジス治療により左室の長軸方向ストレインが改善した野生型トランスサイレチンアミロイドーシスの一例

第 60 回日本循環器病予防学会学術集会 (2024 年 5 月 11~12 日 : 東京)

一般演題

榎本美佳、深水亜子、野原 夢、森川 渚、吉村晴美、足達 寿、福本義弘 : 住民検診における zinc-alpha 2-glycoprotein (ZAG) と腎異能との関連について

吉村晴美、榎本美佳、深水亜子、森川 渚、野原 夢、足達 寿、福本義弘 : ガレクチン-3 と糖尿病の有病率・発症率

坂口美紀、喜多華絵、豊増謙太、翁 徳仁、甲斐久史、和田暢彦、名護 健、荒川善文、秋葉妙美 : スマート食によるダイエットプランが患者さんに与えた影響について

第 77 回日本酸化ストレス学会・第 23 回日本 NO 学会合同学術集会 (2024 年 5 月 17～19

日：横須賀)

シンポジウム 2 “心不全と NO”

福本義弘：肺高血圧症と心不全と NO 経路

高血圧フォーラム 2024 (2024 年 5 月 24～25 日：東京)

ティータムセミナー

甲斐久史：近未来を先取りする高血圧療法：まず積極降圧を“すべき理由”探しから “見合わせる理由” 探しに脱却してみませんか？

イブニングセミナー “腎交感神経デナベーション治療”

甲斐久史：豊富な降圧薬ラインナップに加えて腎デナベーション治療まで必要なのだろうか？～治療抵抗性高血圧・コントロール不良高血圧

日本超音波医学会第 97 回学術集会 (2024 年 5 月 31 日～6 月 2 日：横浜)

ランチョンセミナー

加藤倫子：身近に潜む心筋症 アミロイドーシスを疑う・見つける・治療する

第 28 回日本救急医学会九州地方会 (2024 年 6 月 14～15 日：鹿児島)

一般演題

大堂由斐、松島慶央、香月太郎、林田未有、西木戸文、高田優起、楊井俊之、柴田龍宏、大塚麻樹、本間丈博、福本義弘、高須 修：九州北部豪雨の被災を契機にたこつぼ型心筋症を発症し、心肺停止に至った 1 例

Japan Endovascular Treatment Conference 2024 (JET2024) (2024 年 6 月 14～16 日：

福岡)

RDN #1 “高血圧に対する非薬物治療-腎デナベーションの現状”

甲斐久史：Renal denervation for hypertension treatment and more

第 26 回日本医療マネジメント学会学術総会 (2024 年 6 月 21～22 日：福岡)

林ゆかり、早川晴美、合原則隆、堤 一貴、横山晋二：オカレンス報告システムの導入と今後の課題

第 136 回日本循環器学会九州地方会(2024 年 6 月 29 日：鹿児島)

会長特別企画 2 “九州の循環器コホートからの情報発信”

足達 寿：疫学研究から得られた臨床的知見、60 年間に亘る田主丸検診の結果から

女性研究者奨励賞セッション

吉村晴美、榎本美佳、深水亜子、森川 渚、野原 夢、足達 寿、福本義弘：血清ガレクチン-3 値はメタボリックシンドロームとその構成要素発症を予測しうるか

一般演題

西木戸文、大塚麻樹、今坂佑紀、大部恭子、下池美穂、山川 礼、荒木翔太、林田未有、松島慶央、楊井俊之、石松 高、野原正一郎、福本義弘：久留米市の小学校における心肺蘇生講習の取り組み

青木直登、香月太郎、林田未有、松島慶央、高田優起、楊井俊之、大塚麻樹、本間丈博、福本義弘：当院における難治性心原性ショックに対する VA-ECMO secondary transport の経験

研修医セッション

大滝裕登、岩橋晃平、西木戸文、香月太郎、林田未有、松島慶央、高田優起、楊井俊之、大塚麻樹、本間丈博、福本義弘：急性肺血栓塞栓症により学校現場で心肺停止に陥った女児の一例

首藤 翼、香月太郎、林田未有、西木戸文、松島慶央、高田優起、楊井俊之、大塚麻樹、本間丈博、高木数実、田山栄基、福本義弘：治療方針に苦慮した右房内血栓を伴う急性肺血栓塞栓症の一症例

山本航暉、林田未有、青木直登、岩橋晃平、西木戸文、香月太郎、松島慶央、高田優起、楊井俊之、大塚麻樹、本間丈博、福本義弘：急性心不全を呈した大動脈弁位生体弁置換術後の急性大動脈弁閉鎖不全症：経胸壁心エコー図検査では捉えきれなかった症例の経験報告

TOPIC(TOKyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference)2024 (2024年7月11～13日：東京)

PCI Case competition

中野仁晴、仲吉孝晴、吉賀 巧、石松 高、佐々木雅浩、板家直樹、光武良亮、佐々木健一郎、福本義弘：～高度石灰化病変に対するPCIのpitfall～ ステント脱落をきたしたが、なんとか回収し得た一例

一般演題

吉賀 巧：浅大腿動脈ステント血栓症に対する自作血栓吸引カテの吸引力とその威力

第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (2024年7月13～14日：神戸)

合同企画 8 日本心臓病学会・日本心臓リハビリテーション学会ジョイントセッション
“心リハの近未来：ロボットとAIの関与”

佐々木健一郎、松瀬博夫、福本義弘：ハイブリッド・トレーニングシステムを用いた下肢運動療法

第70回日本不整脈心電学会学術大会(2024年7月18～20日：金沢)

教育講演2 “サルコイドーシス”

田原宣広：診断のピットフォール：PETの有用性と限界

第14回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会 (2024年7月19～20日：福岡)

一般演題

中村拓也、佐々木健一郎、石井義和、佐々木俊輔、加藤暢乃、毛利将大、杉原 学、佐々木雅浩、板家直樹、仲吉孝晴、高瀬谷徹、福本義弘、田山栄基：TAVIにおけるタスクシフト・シェアにより、臨床工学技士(CE)は何ができるか？

第32回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (2024年7月25～27日：札幌)

一般演題

Murasato Y, Meno K, Omura S, Ura Y, Mori T: Risk of Failure of Reverse Wire Technique in Complex Coronary Bifurcation Lesion

Nakayoshi T, Tahara N, Mitsutake Y, Itaya N, Sasaki M, Nakano M, Yoshiga T, Katsuki T, Fukumoto Y: Serial changes of coronary microvascular dysfunction in a case with concomitant systemic AL amyloidosis and systemic wild-type transthyretin cardiac amyloidosis (ATTR)

Homma T, Murotani K, Matsushima Y, Takata Y, Yanai T, Shibata T, Otsuka M, Fukumoto Y: Optimal timing for Impella placement during PCI treated with VA-ECMO in patients with AMI complicated by cardiogenic shock.

Nakano M, Mitsutake Y, Yoshiga T, Ishimatsu T, Sasaki M, Itaya N, Nakayoshi T, Sasaki K, Fukumoto Y: How should we treat CMD related with percutaneous coronary intervention?

Yoshiga T, Sasaki K, Nakano M, Ishimatsu T, Sasaki M, Itaya N, Nakayoshi T, Mitsutake Y, Fukumoto Y: Elucidation of the pathogenesis of coronary microvascular dysfunction in cardiac amyloidosis

貞松研二、久貝忠大、江藤和子、前田高暢、牟田真人、紫原美和子：側枝へのワイヤー再挿入を行わない簡単な jailed balloon technique

CVIT 研修医 AWARD

大堂由斐、中野仁晴、本間丈博、吉賀 巧、石松 高、佐々木雅浩、板家直樹、仲吉孝晴、光武良亮、佐々木健一郎、福本義弘：機械的補助循環を駆使することで救命できた STEMICS の症例

日本集中治療医学会第8回九州支部学術集会(2024年7月27日：宮崎)

優秀演題セッション

山香 修、大塚麻樹、吉田圭介、内村鴻一、天神原崇、河村将熙、松島慶央、野原正一郎、山下典雄、高須 修：当院の ECPR チームにおける取り組み Clinical Indicator の評価

第7回日本腫瘍循環器学会学術集会 (2024年8月3～4日：姫路)

一般演題 (ポスター)

野原正一郎、芝尾昂大、柴田龍宏、森川 渚、福本義弘：好酸球性白血病の治療中に併発した Löffler 心内膜炎の一例

第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (2024年8月9～10日：久留米)

理事長講演

福本義弘：これからの日本肺高血圧・肺循環学会

会長講演

福本義弘：第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会を迎えて

日本サイコカーディオロジー学会ジョイントセッションシンポジウム

田原宣広、本多亮博、井形幸代、古賀祐樹、戸次宗久、緒方詔子、杵山陽一、田原敦子、福本義弘：肺高血圧症における脳代謝

中島菜穂子、田原宣広、古賀祐樹、福本義弘：肺高血圧症患者の精神的支援に対する検討

シンポジウム2 “症例から学ぶディスカッション (循環器内科)”

古賀祐樹、古野晶子、杵山陽一、緒方詔子、戸次宗久、本多亮博、田原宣広、福本義弘：免疫抑制療法が著効した SSc-PAH の一例

シンポジウム7 “症例から学ぶディスカッション (消化器内科)”

本多亮博、杵山陽一、古賀祐樹、戸次宗久、緒方詔子、田原宣広、川口 巧、福本義弘：門脈肺高血圧症に対して経口肺血管拡張薬2剤併用が著効した一例

ビデオライブセッション1 “ASD”

佐々木雅浩：心腔内エコーガイドでの経皮的心房中隔欠損閉鎖術

YIA (基礎)

芝尾昂大、安川秀雄、赤垣大樹、岡部浩太、嶋加奈子、福本義弘：IL-22 は右室圧負荷時にユニークな機序でリモデリングを抑制する (優秀賞)

一般演題(口演)

古賀祐樹、杵山陽一、緒方詔子、戸次宗久、本多亮博、田原宣広、福本義弘：エポプロステノール導入後7か月でIgG4関連疾患を発症した一例

メディカルスタッフセッション“多職種で取り組む肺高血圧症患者に対するつらさの緩和～それぞれの職種が大切にしていること～”

中島菜穂子、田原宣広、古賀祐樹、福本義弘：肺高血圧症患者が抱える「つらさ」について

第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会(2024年8月23～24日:佐賀)

スポンサーセミナー

光武良亮:CMD 診断と治療の実際

一般演題

吉賀 巧、仲吉孝晴、香月太郎、中野仁晴、石松 高、佐々木雅浩、板家直樹、光武良亮、佐々木健一郎、福本義弘：浅大腿動脈ステント血栓症に対する自作血栓吸引カテの吸引力とその威力

香月太郎、仲吉孝晴、吉賀 巧、中野仁晴、石松 高、佐々木雅浩、板家直樹、光武良亮、佐々木健一郎、福本義弘：心臓移植後患者に冠微小循環評価を行った一例

Complication Award

友添漢介、森 隆宏、目野恭平、高橋甚彌、村里嘉信、井上修二郎：高度石灰化病変に対する血管内石灰化破砕術後に解離腔にガイドワイヤーが迷入し工夫を要した症例

第346回日本内科学会九州地方会(2024年8月31日:久留米)

一般演題

下池美穂、内山高輔、中尾英智、古野晶子、眞島涼平、石松 高、本多亮博、光武良亮、福本義弘：僧帽弁接合部の離開した重症機能性僧帽弁閉鎖不全症を有する心不全患者において強心薬投与がMitraClipの成功に寄与した1例

第 60 回日本移植学会総会 (2024 年 9 月 12～14 日：長崎)

一般演題 (口演)

加藤倫子、中島菜穂子、田山栄基、福本義弘：心臓移植後の長期生存者における社会活動、死生観に照らしたメンタルケア：アドバンス・ケア・プランニングの適用

第 42 回福岡救急医学会 (2024 年 9 月 14 日：北九州)

一般演題 (口演)

大塚麻樹、大部恭子、山川 礼、西木戸文、林田未有、松島慶央、楊井俊之、石松 高、野原正一郎、福本義弘、高須 修：救急医の未来予想図～女性医師の立場から～

楊井俊之、下池美穂、大部恭子、山川礼、荒木翔太、林田未有、西木戸文、松島慶央、石松 高、大塚麻樹、野原正一郎、福本義弘、高須 修：大切な人の命を救いたい ～若年心臓突然死症例からみるバイスタンダー CPR の重要性～

金子幸夫、野村駿介、森本 充、一関秀一郎、井手智規、本間丈博：難治性 VF の長距離搬送症例

第 72 回日本心臓病学会学術集会 (2024 年 9 月 27～29 日：仙台)

シンポジウム 13 “心血管画像診断における AI の現状”

加藤倫子、古澤良知、Daniel Lee、Jong-Min Kim、Sang Joon Park：ディープラーニングを活用した CT/3D 画像標準化による心臓画像診断と医療教育の進展

シンポジウム 15 “心臓アミロイドーシス診療 Up to date”

田原宣広：アミロイドーシスの歴史

一般演題 (ポスター)

Sugiyama H, Kato TS, Ito M, Ito J, Watanabe K, Tanabe S, Takamura C, Terashima M: Diastolic Dysfunction and Myocardial Damage Distribution in Fabry Disease and Amyloidosis

中村彬博、河東美菜、香月太郎、林田未有、西木戸文、松島慶央、高田優起、楊井俊之、柴田龍宏、大塚麻樹、本間丈博、高須 修、福本義弘：多臓器不全を来した劇症型心筋症に対し ECPELLA 管理で救命し得た 1 症例

第 28 回日本心不全学会学術集会(2024 年 10 月 4～6 日：大宮)

シンポジウム 8 “肥大型心筋症の遺伝子情報の新たな知見”

加藤倫子、相澤義泰、佐藤奈穂子、辻 省次、浅井邦也、福本義弘：肥大型心筋症における遺伝子情報の新たな知見とその臨床応用-クリニカルシーケンスを用いた HCM 関連遺伝子の網羅的解析

パネルディスカッション 7 “生物学的性差を念頭に置いた心不全治療を考える”

大塚麻樹：性差の視点で診る心筋症

第 46 回日本臨床栄養学会総会(2024 年 10 月 4～6 日：東京)

足達 寿、山本麻紀、榎本美佳、深水亜子、森川 渚、野原 夢、吉村晴美、福本義弘：血清アルブミン値は、フレイル関連因子、微量元素、炎症マーカーと関連する

第 44 回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会（2024 年 10 月 11～12 日：神戸）

シンポジウム “心臓サルコイドーシス再燃をめぐって”

田原宣広、戸次宗久、田原敦子、緒方詔子、古賀祐樹、本多亮博、井形幸代、福本義弘：診断のピットフォール：FDG-PET の有用性と限界

第 46 回日本高血圧学会総会（2024 年 10 月 12～14 日：福岡）

シンポジウム 20 “これから社会が求める医療ニーズに応えるための新しい高血圧専門医とは？”

甲斐久史：高血圧専門医制度改訂の経緯と総論

シンポジウム 28 “高血圧治療ガイドライン”

甲斐久史：JSH2025 の薬物療法の基本

シンポジウム 29 “革新エビデンスとわが国での位置づけを産学官・オールジャパンで考える”

甲斐久史：高血圧腎デナベーション治療（Hypertension RDN Treatment: HRT）チーム

スポンサードシンポジウム 3 “高血圧に対する非薬物療法-腎デナベーションの現状”

甲斐久史：History of RDN

スポンサードシンポジウム 4 “治療抵抗性高血圧に対するアプローチ”

甲斐久史：治療抵抗性高血圧

高血圧学会活性化WG企画セッション “深めよう！楽しもう！ボーダーレス高血圧学”

工藤博司：臨床ではやっぱり多い薬剤誘発性高血圧

一般演題

原田晴仁、西山安浩、甲斐久史：HFrEF と HFpEF におけるアディポネクチン、遊離カルニチン、高血圧の関連

田久保晴美、榎本美佳、深水亜子、森川 渚、野原 夢、佐藤宏美、下山茉世、足達 寿、福本義弘：住民検診における血清ガレクチン-3 値と 2 型糖尿病の有病率、発症率との関連について

森川 渚、榎本美佳、深水亜子、野原 夢、佐藤宏美、吉村晴美、下山茉世、足達 寿、福本義弘：一般住民におけるビタミンK摂取量と認知機能における縦断解析(田主丸コホート研究より)

野原 夢、下山茉世、田久保晴美、佐藤宏美、森川 渚、深水亜子、榎本美佳、足達 寿、福本義弘：血清 IGF-1 値と認知機能、動脈硬化の関連 田主丸横断研究より

第 52 回日本救急医学会総会・学術集会(2024 年 10 月 13～15 日：仙台)

一般演題(ポスター)

松島慶央、山川 礼、西木戸文、石松 高、楊井俊之、大塚麻樹、野原正一郎、福本義弘：乳頭筋断裂による心原性ショックに対して ECMO Secondary Transport を行い、ECPPELLA 管理によって救命し得た一例

大塚麻樹、大部恭子、山川 礼、西木戸文、林田未有、松島慶央、楊井俊之、石松 高、野原正一郎、福本義弘、高須 修：学会とダイバーシティの最適解を探求する

大塚麻樹、西木戸文、香月太郎、林田未有、松島慶央、高田優起、楊井俊之、本間文博、野原正一郎、福本義弘、高須 修：小学校内で心肺停止となった急性肺血栓塞栓症の小児に対する ECPR から我々が学んだこと

楊井俊之、大部恭子、山川 礼、荒木翔太、林田未有、西木戸文、松島慶央、石松 高、大塚麻樹、野原正一郎、福本義弘、高須 修：バイスタンダーによる胸骨圧迫の必要性～若年者の心肺停止症例を経験して～

学生・研修医セッション

山本美保子、中村彬博、香月太郎、林田未有、西木戸文、松島慶央、高田優起、楊井俊之、柴田龍宏、大塚麻樹、本間丈博、福本義弘、高須 修：多臓器不全を来した劇症型心筋症に対し EPELLA 管理で救命し得た 1 症例

第 11 回日本アミロイドーシス学会学術集会 (2024 年 10 月 18 日:松本)

一般演題 (ポスター)

仲吉孝晴、田原宣広、本多亮博、戸次宗久、緒方詔子、山本麻紀、山口真紀、植田光晴、福本義弘：全身性 AL アミロイドーシスと全身性野生型トランスサイレチンアミロイドーシスの合併症例に対するタファミジスを集学的治療効果

戸次宗久、緒方詔子、本多亮博、古賀祐樹、杵山陽一、福本義弘、田原宣広：肥大型心筋症と診断されていた野生型トランスサイレチン型心アミロイドーシスの 1 例

緒方詔子、戸次宗久、本多亮博、古賀祐樹、杵山陽一、田原宣広、福本義弘：骨シンチグラフィの経時比較による ATTR-CA 症例におけるタファミジス治療効果の検討

松尾洸貴、本多亮博、田原宣広、緒方詔子、戸次宗久、古賀祐樹、杵山陽一、福本義弘：トランスサイレチン型アミロイドが、大動脈解離の発症に関与している可能性が示唆された一例

第 347 回日本内科学会九州地方会 (2024 年 11 月 17 日:熊本)

一般演題

西木戸文、菊池 仁、佐竹幸輝、安藤尊康、田中美緒、下池美穂、大部恭子、山川 礼、荒木翔太、林田未有、松島慶央、楊井俊之、石松 高、大塚麻樹、野原正一郎、福本義弘：脳皮質下出血を契機に肺吸虫、肝吸虫の重複感染が判明した東南アジア男性の一例

下池美穂、山川 礼、足達彩香、荒木翔太、大部恭子、林田未有、西木戸文、松島慶央、楊井俊之、石松 高、大塚麻樹、野原正一郎、野村政壽、福本義弘：褐色細胞腫に伴うカテコラミン心筋症の1例

ARIA(Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement)2024
(2024年11月21～23日：福岡)

Imaging / Physiology を使いこなす

貞松研二：分岐部病変で心臓CTを使いこなす

CVIT 専門医試験対策 (Imaging & Physiology 編)

光武良亮：専門医が知っておくべき血管内視鏡知識

PMDA に行こう

光武良亮：PMDA 勤務経験

ランチョンセミナー1 “Improved Vessel Compliance with IVL”

仲吉孝晴：IVL for Eccentric Calcification and Calcified Nodules ～Insights from the Clinical Experiences～

ABBOTT 石灰化塾『柴田塾』@ARIA2024

中野仁晴：OASによる冠動脈穿孔(Ellis type1)

一般演題

鬼塚健太郎、緒方健二、山本圭亮、工藤丈明、綾部健吾、木村俊之、西平賢作、足利敬一、栗山根廣、柴田剛徳：血栓内膜摘除術が不可能であった高齢の総大腿動脈領域の高度石灰化動脈閉塞に対してVIABAHNが有用であった一例

Slender Club Japan 秋の大収穫祭 2024 (2024年11月30日：八王子)

レクチャー3

貞松研二：低侵襲治療における心臓CTのコンセンサス

日本蘇生学会第 43 回大会 (2024 年 12 月 6～7 日 : 大宮)

シンポジウム 1 “社会復帰を目指した心肺蘇生教育の現在”

大塚麻樹 : 心肺蘇生術を繰り返し学べるまちづくり in KURUME

第 125 回日本循環器学会四国地方会 (2024 年 12月7日 : 松山)

ランチョンセミナー

田原宣広 : ATTRv アミロイドーシスの病態から学ぶ診療戦略 ～循環器内科医が知っておきたいポイント～

第 8 回日本循環器学会基礎研究フォーラム (BCVR) (2024 年 12 月 7～8 日 : 東京)

ポスターセッション

Shibao K, Yasukawa H, Akagaki D, Okabe K, Shima K, Fukumoto Y: A new mechanism of IL-22-responsive right ventricular remodeling in a right ventricular pressure overload model

第 137 回日本循環器学会九州地方会 (2024 年 12 月 14 日 : 大分)

ランチョンセミナー4

福本義弘 : 心不全のトータルマネジメント ～当院での心不全医療連携を含めて～

ランチョンセミナー5

大江征嗣 : 高齢者における心房細動の早期介入 : 薬物治療とカテーテルアブレーションの役割

会長企画 “九州内の Brugada 症候群, 早期再分極症候群-こんな患者さん経験しました-”

大江征嗣 : 早期再分極心電図所見の多様性と臨床意義

一般演題

貞松研二、紫原美和子 : 心不全患者の原因検索におけるワンストップ心臓 CT 検査

吉賀 巧、佐々木健一郎、中野仁晴、石松 高、佐々木雅浩、板家直樹、仲吉孝晴、光武良亮、田原宣広、福本義弘 : 心アミロイドーシスと冠微小循環障害の関連性の検討

岩城彰浩、翁 徳仁、大地祐輔、佐々木基起、青木裕司、甲斐久史：整形術前にアナフィラキシーショックを起こしその後心機脳低下を認めカテコラミン心筋症が疑われた一例

鬼塚健太郎、高松 誠、西野 峻、木村俊之、西平賢作、足利敬一、栗山根廣、浅田祐士郎、柴田剛徳：入院中に劇症化した心筋炎の一例

下池美穂、石松 高、足達彩香、山川 礼、荒木翔太、大部恭子、林田未有、西木戸文、松島慶央、楊井俊之、大塚麻樹、野原正一郎、福本義弘：褐色細胞腫に伴うカテコラミン心筋症の1例

研修医セッション

加倉沙也花、中尾英智、佐々木雅浩、野中瑠以子、岡部浩太、福本義弘：診断に苦慮した POS による低酸素血症の症例に対し、経皮的卵円孔閉鎖術を施行した1例

JATS-NEXT 2024 (2024年1月27日：大阪)

一般演題

朔 浩介、高木数実、福田倫史、財満康之、新谷悠介、庄嶋賢弘、大塚裕之、高瀬谷徹、有永康一、田山栄基：セルマン鑷子を知っていますか？ ～その異形と凡用性～

第16回福岡県医学会総会 (2024年2月4日：福岡)

一般演題

野村政爾、高木数実、朔 浩介、福田倫史、庄嶋賢弘、高瀬谷徹、有永康一、田山栄基：DA-Impella5.5から植え込み型VADに至った広範前壁MIの一例

第54回日本心臓血管外科学会学術総会 (2024年2月22～24日：浜松)

ポスター

金本 亮、大塚裕之、今井伸一、中村英司、庄嶋賢弘、高木数実、高瀬谷徹、有永康一、廣松伸一、田山栄基：尿中NGALに着目した開腹人工血管置換術におけるAKI早期診断の可能性

ワークショップ

高木数実、庄嶋賢弘、財満康之、朔 浩介、福田倫史、大塚裕之、高瀬谷徹、有永康一、田山栄基：心臓大血管手術後の SSI への新たな試み：予防的 NPWT と CLAP 療法

一般口演

朔 浩介、高木数実、福田倫史、金本 亮、今井伸一、財満康之、中村英司、庄嶋賢弘、大塚裕之、高瀬谷徹、有永康一、田山栄基：Cardiac damage は大動脈弁狭窄症の術後予後に影響するか？

フォーカスセッション

今井伸一、大塚裕之、鬼塚誠二、田中厚寿、金本 亮、中村英司、庄嶋賢弘、高木数実、高瀬谷徹、廣松伸一、田山栄基：EVAR 後遠隔期における Open conversion の治療成績の検討

ランチョンセミナー

高木数実：SSI ケアバンドルへのチームアプローチと予防的 NPWT の効果および今後の展望

大塚裕之：Aortic Aging に focus した TEVAR 治療 ～Migration 回避は遠隔期を制する～

第 60 回九州外科学会（2024 年 3 月 8～9 日：大分）

一般演題

光岡渚子、高瀬谷徹、庄嶋賢弘、高木数実、大塚裕之、有永康一、廣松伸一、田山栄基：TAVI 弁の Migration を来した 1 例

大塚隆弘、金本 亮、今井伸一、新谷悠介、庄嶋賢弘、高木数実、高瀬谷徹、大塚裕之、鬼塚誠二、田中厚寿、廣松伸一、田山栄基：大腿深動脈瘤に対して VIABAHN VBX で治療した一例

第 51 回日本集中治療医学会学術集会 (2024 年 3 月 8～9 日 : 札幌)

ポスター

有永康一、佐藤 晃、朔 浩介、中川将視、田山栄基、光岡正浩：開心術後硬膜下血腫の検討

第 52 回人工心臓と補助循環懇話会学術集会 (2024 年 4 月 5～6 日 : 函館)

一般演題

高木数実、朔 浩介、本間丈博、大塚麻樹、松島慶央、楊井俊之、田山栄基：IMPELLA5.5 に対するメイロン加パージ液の有効性と安全性

第 52 回日本血管外科学会学術総会 (2024 年 5 月 29～31 日 : 大分)

要望演題

新谷悠介、高木数実、福田倫史、朔 浩介、金本 亮、今井伸一、庄嶋賢弘、大塚裕之、高瀬谷徹、廣松伸一、田山栄基：急性 A 型大動脈解離に対する左鎖骨下動脈を温存した FET+TAR の治療成績

一般口演

今井伸一、大塚裕之、鬼塚誠二、田中厚寿、金本 亮、新谷悠介、廣松伸一、田山栄基：長期予後を考慮した腹部大動脈瘤手術症例の術式選択における術前栄養学的評価の意義

一般口演ビデオ

大塚裕之、今井伸一、金本 亮、新谷悠介、鬼塚誠二、廣松伸一、田山栄基：当科における EVAR 後 Open conversion 手術における術中戦略と工夫

コーヒープレイクセミナー

大塚裕之：Aortic aging に focus した大動脈治療 ～CT 画像を用いた Aortic aging 評価の可能性～

第 44 回日本静脈学会総会 (2024 年 6 月 13～14 日 : 軽井沢)

要望演題

宮崎裕佳子、金本 亮、今井伸一、大塚裕之、廣松伸一、田山栄基：胆管患者の下肢静脈血栓塞症診断における下肢静脈エコー検査の現状

ポスター

加倉明日香、金本 亮、今井伸一、大塚裕之、廣松伸一、田山栄基：当院における抹消挿入型中心静脈カテーテル（PICC）関連血栓症の検討

今井伸一、金本 亮、新谷悠介、大塚裕之、廣松伸一、田山栄基：経皮的回収に難渋した植込み型中心静脈ポートカテーテル断裂の1例

第136回日本循環器学会九州地方会（2024年6月29日：鹿児島）

一般演題

三根大輝、高木数実、朔 浩介、福田倫史、財満康之、庄嶋賢弘、田山栄基：頸髄損傷による四肢麻痺を伴う重症僧帽弁閉鎖不全症に対する胸骨下部分切開僧帽弁形成術

福田展大、朔 浩介、高木数実、三根大輝、福田倫史、財満康之、庄嶋賢弘、高瀬谷徹、有永康一、田山栄基：収縮性心膜炎を契機に原発性悪性心膜中皮腫の診断に至った1例

第8回日本低侵襲心臓手術学会学術集会（2024年7月5～6日：大分）

優秀演題

高木数実、伊藤慎一郎、朔 浩介、砥上 忍、山口優華、福田倫史、財満康之、三根大輝、高瀬谷徹、有永康一、田山栄基：正中切開とMICSによる開心術後右室収縮能の検討：僧帽弁位、大動脈弁位手術に違いはあるか？

第28回日本冠動脈外科学会学術大会（2024年7月11～12日：東京）

ランチョンセミナー

田山栄基：虚血性心疾患機械的合併症における吸入NOの有用性

スポンサードシンポジウム

高木数実：「ImCAB Summit 2024 —Improve myocardial function for high-risk CABG—」 症例提示2

一般演題

高木数実、庄嶋賢弘、財満康之、朔 浩介、福田倫史、新谷悠介、今井伸一、金本 亮、大塚裕之、高瀬谷徹、有永康一、田山栄基：心原性ショックに陥った急性冠症候群に対するインペラ補助、心拍動下冠動脈バイパス術

第 60 回日本小児循環器学会総会・学術集会 (2024 年 7 月 11～13 日：福岡)

ポスター

庄嶋賢弘、財満康之、寺町陽三、高瀬隆太、前田靖人、清松光貴、須田憲治、田山栄基：
弁膜症および大動脈への手術介入により良好な経過が得られている新生児 Marfan 症候
群の 1 例

第 57 回日本胸部外科学会九州地方会総会 (2024 年 8 月 1～2 日：福岡)

イブニングセミナー

大塚裕之：TEVAR の治療戦略

ランチョンセミナー

大塚裕之：心臓血管外科におけるデバイスの選択～止血と視野展開の工夫～

日本血管外科学会中国四国地方会第 54 回総会 (2024 年 8 月 3 日：徳島)

アフタヌーンセミナー

高瀬谷徹：TAVI デバイスの進化

第 9 回日本肺高血圧症・肺循環学会学術集会 (2024 年 8 月 9～10 日：久留米)

シンポジウム

庄嶋賢弘：開心術後の PH を伴う血管拡張性低血圧に対する iNO と AVP

第 121 回日本血管外科学会九州地方会 (2024 年 8 月 31 日：福岡)

一般演題

新谷悠介、音琴真也、金本 亮、高木数実、大塚裕之、廣松伸一、田山栄基：
FeneOS (Fenestrated Open Stent Technique) を用いた全弓部置換 (TAR) 術後解離腔拡大
に対して追加治療を施行した 1 例

ランチョンセミナー

大塚裕之：ステントグラフト留置後の Aortic Stiffness と Migration の関連性

九州麻酔学会第 62 回大会 (2024 年 9 月 7 日：久留米)

講演

田山栄基：心臓血管外科手術の周術期管理における循環補助

第 14 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会 (2024 年 7 月 19～20 日：福岡)

一般口演

高瀬谷徹：CT シミュレーションによる将来の TAVinTAV の可能性

第 65 回日本脈管学会学術総会 (2024 年 10 月 24～25 日：東京)

ポスター

金本 亮、大塚裕之、音琴真也、新谷悠介、廣松伸一、田山栄基：悪性腫瘍患者の静脈血栓塞栓症診療における固形腫瘍と血液腫瘍の比較検討

音琴真也、大塚裕之、三根大輝、福田倫史、朔 浩介、金本 亮、財満康之、新谷悠介、高木数実、庄嶋賢弘、高瀬谷徹、有永康一、田山栄基：炎症性か感染性の判断に難渋したステントグラフト内挿術後腹部大動脈瘤の 1 例

第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会 (2024 年 11 月 1～4 日：金沢)

パネルディスカッション

高木数実、庄嶋賢弘、朔 浩介、福田倫史、三根大輝、大塚裕之、高瀬谷徹、有永康一、田山栄基：術前にインペラを導入した心原性ショックを伴う虚血性心疾患の外科治療成績

Rapid Fire セッション

高木数実、庄嶋賢弘、朔 浩介、福田倫史、三根大輝、大塚裕之、高瀬谷徹、有永康一、田山栄基：インスピリス Resilia による大動脈弁置換術後の血行動態

シンポジウム

Takaseya T, Otsuka H, Takagi K, Shojima T, Shintani Y, Tayama E: Assessing Potential Risks of Future TAV-in-TAV

第 37 回日本外科感染症学会学術集会 (2024 年 11 月 8～9 日：東京)

シンポジウム

高木数実、朔 浩介、財満康之、福田倫史、三根大輝、新谷悠介、金本 亮、音琴真也、庄嶋賢弘、大塚裕之、高瀬谷徹、有永康一、田山栄基：開心術後深部胸骨感染に対する CLAP 療法の治療成績

パネルディスカッション

高木数実、朔 浩介、財満康之、福田倫史、三根大輝、新谷悠介、金本 亮、音琴真也、庄嶋賢弘、大塚裕之、高瀬谷徹、有永康一、田山栄基：心臓血管外科領域における CLAP 療法の可能性

第 62 回日本人工臓器学会大会 (2024 年 11 月 14～16 日：宇都宮)

一般口演

有永康一、高木数実、庄嶋賢弘、高瀬谷徹、田山栄基：大動脈弁位に CEP 弁の耐久性について一初回手術時の年齢と再弁置換時の考察一

Next2024 (2024 年 11 月 8～9 日：奈良)

一般演題

金本 亮：Frozenix による Frozen elephant trunk 術後の追加 TEVAR 時にステント骨格が反転した 1 例

ストラクチャークラブ・ジャパンライブデモンストレーション 2024 (2024 年 11 月 22～23 日：大阪)

一般口演

高瀬谷徹：透析症例でのシャント側鎖骨下動脈アプローチ

第 37 回日本冠疾患学会学術集会 (2024 年 11 月 29～30 日：東京)

ビデオセッション

田山栄基：下壁梗塞 VSP に対する術前 IMPELLA を用いる有用性

第 137 回日本循環器学会九州地方会 (2024 年 12 月 14 日：大分)

一般演題

木山 楓、高木数実、庄嶋賢弘、朔 浩介、財満康之、福田倫史、三根大輝、大塚裕之、高瀬谷徹、有永康一、田山栄基：食道切除、胸骨後胃管再建後の活動期僧帽弁感染性心内膜炎に対する MICS-MVP

第 14 回日本弁膜症学会 (2024 年 12 月 20～21 日：長崎)

ポスター

高木数実、有永康一、庄嶋賢弘、朔 浩介、財満康之、三根大輝、新谷悠介、大塚裕之、高瀬谷徹、田山栄基：大動脈弁置換術後の外科的大動脈弁再介入の成績

朔 浩介、高木数実、三根大輝、福田倫史、財満康之、庄嶋賢弘、高瀬谷徹、有永康一、田山栄基、田山栄基：狭小弁輪に対して弁輪拡大下に留置した Inspiris 21mm と Perceval S の血行動態の比較

第 34 回日本先天性心疾患インターベンション学術集会 (2024 年 1 月 25～27 日：名古屋)

シンポジウム 1

須田憲治、佐々木雅浩、山川祐輝、清松光輝、津田恵太郎、前田靖人、高瀬隆太、寺町陽三、家村素史：「No-Fluoro, Zero contrast を目指して」心腔内エコーガイドによる Zero Contrast 動脈管閉鎖術

前田靖人、清松光輝、山川祐輝、津田恵太郎、高瀬隆太、寺町陽三、財満康之、庄嶋賢弘、須田憲治：「ASD カテーテル治療；限界と使い分け」10kg 未満での ASD カテーテル治療

須田憲治、山川祐輝、清松光輝、津田恵太郎、前田靖人、鍵山嘉之、高瀬隆太、寺町陽三、家村素史：スポンサーセミナー 5 「その ASD、いつ閉鎖する？ —心房中隔欠損に対するカテーテル治療の至適時期を考察する—」低体重児に対する ASD カテーテル治療閉鎖術の意義を再考する

前田靖人、山川祐輝、清松光輝、津田恵太郎、佐々木雅浩、高瀬隆太、寺町陽三、家村素史、須田憲治：ワイヤフレームストレスインデックス (WFSI) はゴア心房中隔欠損オクルーダーのワイヤフレームラクチャーを予測できる

須田憲治、山川祐輝、清松光貴、津田恵太郎、前田靖人、鍵山慶之、高瀬隆太、寺町陽三、家村素史：低体重児に対する ASD カテーテル治療閉鎖術の意義を再考する スポンサーセミナー 5 「その ASD、いつ閉鎖する？ —心房中隔欠損に対するカテーテル治療の至適時期を考察する—」

第 60 回日本小児循環器学会（2024 年 7 月 11～12 日：福岡）

シンポジウム 4

寺町陽三、須田憲治：新生児 Ebstein 病/三尖弁異形成の左心室機能 重症 Ebstein 病の診療 胎児から新生児まで

パネルディスカッション 1

鍵山慶之、寺町陽三、清松光貴、津田恵太郎、前田靖人、高瀬隆太、家村素史、須田憲治：高リスク症例に対する 経皮的心房中隔欠損閉鎖術 低侵襲の治療をもっと多くのこどもたちへ ～心房中隔欠損～

6, 研究会

鳥栖三養基医師会学術講演会 (2024年1月15日:鳥栖)

特別講演

福本義弘:心腎貧血連関から心不全診療を考える

トーアエイヨー社内研修会(2024年1月18日:福岡)

仲吉孝晴:虚血性心不全に対する血行再建を考える

第33回久留米大学病院指導医講習会(2024年1月20日:久留米)

安川秀雄: コーチング:子育て・教育指導・診療に役立つコミュニケーション

Cardiovascular Translational Research Conference (2024年1月20日:WEB)

芝尾昂大:右室圧負荷モデルマウスの右室機能障害における IL22/IL22BP 系の役割

循環器 Young Generation Seminar on WEB (2024年1月24日:WEB)

本多亮博:ここが知りたい!!僧帽弁閉鎖不全症の心エコー ~心臓解剖から弁膜症治療ガイドラインまで~

エリアで診る循環器セミナー in 久留米 (2024年1月25日:WEB)

田原宣広:見逃さない心アミロイドーシス ~シンチグラフィの活用術~

エリアの健康寿命の延伸を考える会 (2024年1月25日:WEB)

大江征嗣:心房細動の早期発見の重要性と抗凝固療法

第3回福岡次世代救急セミナー (2024年1月25日:福岡)

松島慶央:機械的胸骨圧迫による合併症により呼吸管理に難渋した ECMO 症例

筑後地域救急医療研究会「循環器・脳卒中研修会」(2024年1月30日:WEB)

大塚麻樹:心肺蘇生を再考する Ver.2

ARNI Symposium Seminar ~心不全ステージ早期介入の意義~ (2024年1月31日:秋田)

特別講演

福本義弘:早期からの心不全治療 ~久留米地区での心不全地域連携も含めて~

K-LEAD (2024年2月2日：福岡)

芝尾昂大：好酸球性白血病の治療中に Loffler 心内膜炎を併発した一例

地域で診る循環器疾患 Web セミナー (2024年2月5日：前橋・WEB)

甲斐久史：来し方行く末を見据えた心房細動診療

高血圧 Web Seminar (2024年2月6日：WEB)

甲斐久史：高血圧診療の課題とエサキセレノンの位置づけ～リアルワールドエビデンスを踏まえて

Cardiac rehabilitation forum (2024年2月7日：名古屋)

特別講演

福本義弘：心血管病に対する健康的な対応 ～運動と血糖コントロールの重要性～

日田市 Core Meeting(2024年2月9日：日田)

日野昭宏：心不全を多面的に考える

江藤成顕、國崎 湧、日野昭宏、青木裕司、大坪 仁：循環器疾患と中性脂肪管理-冠動脈疾患の残余リスク

アップデート：腹部大動脈瘤 AAA の基礎から臨床-中性脂肪と AAA の意外な関係- (2024年2月10日：大阪)

青木浩樹：ある血管外科医の夢 -大動脈瘤退縮療法の始まり-

第1回 CC Conference (2024年2月12日：東京)

山路和伯：肺高血圧症患者における肺微小循環機能評価法の検証

神崎市郡医師会学術講演会 ～高血圧症・心不全治療の地域連携強化を目指して～ (2024年2月15日：神埼)

香月与志夫：高血圧・心不全の包括的アプローチ

第9回 Young Investigator Meeting in Kurume Cardiovascular Medicine ～反省点をシェアして若手の引き出しを増やす会～ (2024年2月17日：久留米)

久貝忠大：リード高度石灰化病変に対する PCI 中にパーフォレーションを起こした症例

岩橋秀明：診断とマネジメントに悩んだ植込み型心臓電気デバイス感染の症例

前田高暢：心室瘤に対する抗凝固療法を中止して5年後に心原性脳梗塞を発症した1例

猪口悟一：造影剤による乳酸アシドーシスの関与が疑われた院内急変の一例

丸岡優以：心嚢液貯留を契機に発見された血管免疫芽球T細胞性リンパ腫の1例

池田梨紗：容易に心タンポナーデを呈した右房原発血管肉腫の一例

岩城彰浩：重症連合弁膜症と発作性心房細動に伴う低拍出量症候群の治療に難渋した症例

野田武志：左冠動脈主幹部への介入が心原性ショックの離脱に奏功した右冠動脈を責任病変とするSTEMI症例

國崎 湧：血行動態の破綻した広範型急性肺血栓塞栓症に対してVA-ECMOを導入した1例

レクチャー

福本義弘：心肺疾患合併肺高血圧症について

久留米内科医会学術講演会 (2024年2月21日：久留米)

大江征嗣：Debate Conference：4つのDOACを使いこなそう

エンレスト National Symposium ～降圧治療の最前線～ (2024年2月25日：東京)

甲斐久史：これからの降圧治療の課題とエンレスト～Hypertension Paradox と心血管イベントの抑制～

Educational Live course in Oita prefectural Hospital (2024年2月29日：WEB)

中野仁晴：ACS や石灰化病変に対するOCT/OFDIガイドPCI

第11回 Omuta Cardiac Conference (2024年2月29日：大牟田)

江藤和子：心嚢液の鑑別に難渋した症例

ARNI エキスパートミーティング (2024年3月11日：八女)

香月与志夫：高血圧・心不全の包括的アプローチ

Sanofi Fabry Academy Vol.2 (2024年3月12日：WEB)

安川秀雄：早期に治療介入した女性ファブリー病症例

3rd Annual Culver Vision Discovery Institute Savannah River Eye Meeting (2024年3月13日：Augusta)

Poster Session

Yamamoto M, Ash D, Varadarajan S, Zaidi SA, Rojas M, Xu Z, McMenamin M, Kelley S, Caldwell RB, Fukai T, Ushio-Fukai M: Novel Role of Copper Uptake Transporter CTR1 in Retinal Ischemia-Reperfusion Injury

持田製薬株式会社社内講演会 (2024年3月15日：福岡)

大江征嗣：心腎保護を考慮した高尿酸血症治療 UPDATE

サイトカインと免疫関連疾患研究会(2024年3月16日：東京)

安川秀雄：心血管系における CIS/SOCS の機能解析

久留米大学病院看護部 クリニカルコーチ研修 (2024年3月18日：久留米)

安川秀雄：子育て・教育指導・看護に役立つ対話型コミュニケーション ～自己の安定化・良い捉え方・信頼・尊敬・陽性感情～

明日から使える高血圧治療を考える ～ARNI がもたらす新時代～ (2024年3月19日 久留米)

香月与志夫：心不全進展リスクステージB症例への介入

循環器病診連携の会 (2024年3月26日：福岡)

特別講演

福本義弘：わが国における HFpEF 診療 ～当院での心不全医療連携もふくめて～

地域連携講演会 (2024年3月28日：田主丸)

大江征嗣：不整脈治療の最前線

令和6年度久留米大学新入生学生生活ガイダンス (2024年4月1日：久留米)

安川秀雄：自分と他者の命に影響する喫煙の健康被害

令和6年度久留米大学病院新規採用者オリエンテーション・研修医 (2024年4月2日：久留米)

安川秀雄：患者との対話型コミュニケーション

令和6年度久留米大学病院新規採用者オリエンテーション (2024年4月3日：久留米)

安川秀雄：心と身体の健康

令和6年度久留米大学医学部新入生オリエンテーション (2024年4月5日：久留米)

安川秀雄：Well-being な学生生活であるために ～心と身体とつながりを大切にしよう～

Craftsman ～TOKAI×KYUSHU～ (2024年4月9日：WEB)

吉賀 巧：ATAの石灰化にWINNERで挑む

イグザレト講演会 IN 大阪 (2024年4月14日：大阪)

特別講演

福本義弘：循環器医の立場からみた健康寿命延伸のための心房細動診療

Fukuoka Imaging and Physiology Conference (FMAP25) (2024年4月16日：WEB)

貞松研二：石灰化病変 ～丸腰でやり過ごす～

第2回 GDMT 循環器治療 UPDATE セミナー (2024年4月24日：WEB)

大江征嗣：最新ガイドラインに基づく非薬物治療選択

第8回 Bailout 研究会 (2024年4月24日：WEB)

中野仁晴：Bailoutに難渋したステント脱落の一例

久留米医学会総会 (2024年4月25日：久留米)

横山晋二：特定機能病院における医療安全

心房細動セミナー2024 (2024年4月26日：久留米)

大江征嗣：2024年ガイドラインフォーカスアップデート版 不整脈治療改定のポイント

Mikawa Cardiac Conference (2024年5月8日：WEB)

貞松研二：心臓CTをPCIに活かす

心不全緩和ケアを考える会 (2024年5月14日:北見・WEB)

柴田龍宏:心不全緩和ケアの現在地

興和株式会社社内勉強会(2024年5月14日:久留米)

吉賀 巧:下肢閉塞性動脈硬化症の今

世界高血圧デーに降圧治療を考える(2024年5月17日:WEB)

板家直樹:高血圧から考える心不全進展予防

トーアエイヨー社内講演会 (2024年5月21日:福岡)

大江征嗣:最新ガイドラインから不整脈知識をアップデート

GLP-1 Update Seminar (2024年5月24日:佐世保)

大江征嗣:循環器医がもつ GLP-1 受容体作動薬への期待

筑後 PCI-Round Table Seminar(2024年5月24日:WEB)

仲吉孝晴:PCI 施行に難渋した症例

中野仁晴:Bailout に難渋したステント脱落の一例

イグザレルト WEB カンファランス (2024年5月30日:WEB)

大江征嗣:新ガイドラインが示す心房細動治療の新展開

久留米大学病院看護部 クリニカルコーチ研修 (2024年6月5日:久留米)

安川秀雄:若手看護師と良い関係を築きコミュニケーションするコツ

CTEPH Master Class (2024年6月5~7日:パリ)

Sugiyama Y: Balloon Pulmonary Angioplasty in CTEPH

第20回久留米心不全夜会特別記念講演会 (2024年6月6日:久留米)

特別講演

福本義弘:超高齢社会におけるこれからの循環器診療について

Orsiro Mission Webセミナー(2024年6月6日:福岡)

仲吉孝晴:血管内視鏡で診る Orsiro ステントの安全性

久留米冠微小循環研究会 (2024年6月14日:久留米・WEB)

中野仁晴:冠循環とベルイシグアト

八女筑後・循環器睡眠呼吸障害講演会 (2024年6月20日:八女)

特別講演

福本義弘:循環器疾患における睡眠呼吸障害について

朝倉医師会学術 web 講演会 (2024年6月20日:朝倉)

甲斐久史:来し方行く末を見据えた心房細動診療

有明循環器カンファレンス (2024年6月20日:荒尾)

Sadamatsu K: Manual compression hemostasis using a hemostatic pad for the distal radial artery approach

第25回ホルモンと癌研究会 (2024年6月28~29日:久留米)

シンポジウム

野原正一郎:当院における腫瘍循環器外来の取り組み

福岡県内科医会学術講演会 (2024年6月29日:飯塚)

特別講演

福本義弘:健康寿命延伸のための心房細動診療～薬物治療と包括管理～

高尿酸血症治療カンファレンス (2024年7月10日:中津)

大江征嗣:日常診療に役立つ!痛風・高尿酸血症治療 UPDATE

地域でつなぐ心疾患(2024年7月11日:久留米)

板家直樹:抗血栓療法を再考する

第1回 ARIAKE ハートカフェ(2024年7月11日:大牟田)

紫原美和子:心不全における薬物治療

野田武志:心不全増悪による入院を繰り返した一例

久留米 irAE Management Practical Workshop -心筋炎(2024年7月12日:久留米)

野原正一郎:実症例から irAE 心筋炎を考える

第16回九州肺高血圧症研究会 (2024年7月12日：福岡)

古賀祐樹：治療に難渋している末梢性肺動脈狭窄症

八女公立総合病院職員研修会 (2024年7月17日：筑後)

安川秀雄：コーチング：子育て・教育指導・診療に役立つ対話型コミュニケーション

地域で支える心不全セミナー (2024年7月18日：久留米)

福本義弘：心不全診療における高血圧治療の重要性

日田市医師会学術講演会 (2024年7月18日：日田)

日野昭宏：心不全を地域でみる

不整脈診療 WEB セミナー (2024年7月22日：WEB)

大江征嗣：新ガイドラインが示す心房細動治療のポイント

TAKE ACTION カレッジ Vol.3 (2024年7月24日：福岡)

本間丈博：身近な災害 心肺停止～現状と課題を識る～

プライマリーケアセミナー (2024年7月30日：久留米)

講演 II

福本義弘：災害発生時における対応 ～高血圧・糖尿病薬物治療の視点を踏まえて～

Singapore Medical Conference (2024年7月30日：シンガポール)

Ohe M: Elucidating Persistent Atrial Fibrillation with the CARTO Module

Heart Failure Circulation Up-to-Date ～軽度から重症心不全におけるマネジメントアプローチ～ (2024年8月5日：岡山)

特別講演

福本義弘：超高齢社会のわが国における HFpEF 診療 ～当院の心不全医療連携も含めて～

第83回鳥栖三養基医師会臨床セミナー (2024年8月6日：鳥栖)

特別講演

佐々木健一郎：カテーテル治療後の脂質管理

Sanofi 株式会社社内勉強会 (2024年8月7日:久留米)

安川秀雄: ファブリー病の臨床的特徴と診断のポイント ~循環器領域における診断から治療まで~

エリキュースインターネット講演会 (2024年8月21日:WEB)

大江征嗣: 心房細動治療の最新ガイドラインと実践的アプローチ

傷まで診る! EVT の会 (2024年8月22日:福岡)

吉賀 巧: 傷を治す血流をどう評価するか

実地医家のための高血圧セミナー (2024年8月27日:WEB)

甲斐久史: 外来で見つける高血圧性臓器障害~その意義と対策

KANEKA EVT Conference ~Wingman 編~ (2024年9月4日:WEB)

吉賀 巧: WINGMAN の使用経験 ~この症例にどう挑むべきだったか~

The OFDI conference(2024年9月6日:福岡・WEB)

中野仁晴: IVL 適応病変を OFDI guide で治療した症例

ビンマックインターネットシンポジウム (2024年9月11日:WEB)

田原宣広: 循環器内科医が行う ATTR アミロイドーシス診療 -他科との連携による、より良いケアを目指して-

八女筑後医師会学術講演会 (2024年9月12日:八女)

甲斐久史: 変わろうとしている日常診療~高血圧、心房細動

息切れ Web セミナー (2024年9月30日:弘前・WEB)

特別講演

福本義弘: その息切れの原因は何だろう?

第12回 Omuta Cardiac Conference(2024年10月1日:大牟田)

猪口悟一: CT における肺灌流評価の有用性

久留米大学病院看護部 クリニカルコーチ研修 (2024年10月4日:久留米)

安川秀雄: 自己基盤を整える ~セルフケアの重要性~

令和6年度 宮崎・鹿児島地区国立病院機構薬剤師会 薬学研究会 (2024年10月5日：都城)

横山晋二：医薬品の医療安全管理体制について

CTEPH webセミナー in 久留米 (2024年10月16日：WEB)

古賀祐樹：肺塞栓症のその後について ～CTEPHを見逃さないために～

Fabry Expert Meeting for Cardiologist (2024年10月19日：久留米)

安川秀雄：ファブリー病に対する早期治療介入の重要性

2024年度日本心脈管作動物質学会若手シンポジウム (2024年10月19日：福岡)

芝尾昂大：IL-22は右室圧負荷時の右室リモデリングをユニークな機序で抑制する

第46回九州虚血性心疾患研究会(2024年10月19日：福岡・WEB)

香月太郎：2枝CTOを伴うACS

PCI Conference in CHIKUGO(2024年10月22日：久留米)

香月太郎：重度の心原性ショックを伴う2枝CTOのACSに対する治療方針に苦慮した症例

第3回GDMT循環器治療UPDATEセミナー (2024年10月23日：WEB)

大江征嗣：多角的視点から迫る、心不全治療 UPDATE 多職種連携がもたらす循環器診療の進歩

二日市循環器内科オープンカンファレンス (2024年10月25日：筑紫野)

甲斐久史：変わろうとしている高血圧日常診療

柳川山門医師会学術講演会 (2024年10月29日：柳川)

大江征嗣：ガイドライン改訂に基づく心房細動治療の最前線

希少疾患における医療連携セミナー ～ファブリー病 早期診断・早期治療の重要性～ (2024年10月31日：久留米)

安川秀雄：実臨床でファブリー病を疑うべき症状 早期診断の重要性について

第 189 回宮崎心臓病研究会 (2024 年 11 月 5 日：宮崎)

特別講演

福本義弘：動脈硬化性疾患における中性脂肪コントロールと心臓リハビリテーション

循環器疾患と糖尿病を考える会 (2024 年 11 月 5 日：福岡)

大江征嗣：循環器治療における GLP-1 受容体作動薬の役割と展望

糖尿病と高血圧について考える～糖尿病の腎症重要化予防 (2024 年 11 月 6 日：岐阜 WEB)

甲斐久史：変わろうとしている高血圧日常診療～厳格降圧をする理由探しから脱却しませんか？

高血圧診療 Up to Date (2024 年 11 月 7 日：新潟)

甲斐久史：変わろうとしている高血圧日常診療～脳心血管病イベント抑制のために

PAH サロン (2024 年 11 月 7 日：WEB)

古賀祐樹：同時期にエポプロステノールを導入した重症 I/H-PAH2 症例の比較

久留米内科医会 (2024 年 11 月 13 日：久留米)

甲斐久史：新しい高血圧実地診療-何処を目指し何をするのか？考えてみましょう

第 6 回心不全連携の会 (2024 年 11 月 13 日：福岡)

高橋甚彌：Win-Win-Win の心不全地域連携

京都心不全ネットワークスピンオフ講演会 ～心不全と貧血を考える～ (2024 年 11 月 14 日：京都)

特別講演

福本義弘：高齢化と腎性貧血と心不全

PAH Clinical Conferences in Kyusyu (2024 年 11 月 16 日：福岡)

古賀祐樹：肺高血圧における Clinical Question ～免疫抑制療法が効果を示した SSc-PAH～、～妊娠と肺高血圧～

久留米大学病院研修医会 (2024 年 11 月 19 日：久留米)

横山晋二：インシデント報告をしよう！

令和6年度在宅医療・介護連携推進事業 多職種連携研修会 (2024年11月19日：大牟田)

紫原美和子：心不全患者さんを地域で支えるために

第10回大動脈解離シンポジウム (2024年11月23日：東京)

青木浩樹：大動脈解離発症の分子メカニズム

GLP-1 Kurume Regional Seminar (2024年11月25日：久留米)

大江征嗣：GLP-1 受容体作動薬と循環器疾患管理

OAS+OCT Webinar (2024年11月25日：WEB)

症例提示

仲吉孝晴：治療方針に苦慮した石灰化結節症例

大牟田医師会学術講演会 (2024年11月26日：大牟田)

特別講演

福本義弘：心血管保護の観点からの糖尿病治療

公益財団法人三越厚生事業団主催第50回健康セミナー (2024年11月26日：東京)

加藤倫子：身近に潜む心筋の病気-検診で見つかる心臓疾患と最新治療法

地域医療連携講演会 (2024年11月28日：田主丸)

特別講演

福本義弘：超高齢社会のわが国における心不全診療～当院の医療連携も含めて～

OPTIMIZING PH CARE IN ASIA PACIFIC (2024年11月28日：WEB)

Agenda

Proudman S, Fukumoto Y: Use some case studies to demonstrate successful MDT collaboration in PAH

Discussion and QA

Proudman S, Fukumoto Y

大分西部CRM Web Seminar(2024年11月28日：日田)

日野昭宏：慢性心不全における SGLT2 阻害剤導入の意義

ノバルティス ファーマー株式会社社内勉強会 (2024年11月28日:久留米)

吉賀 巧:下肢閉塞性動脈硬化症の今

第7回富山心不全包括治療カンファレンス講演会 (2024年11月29日:富山)

特別講演

福本義弘:心不全包括治療について～睡眠呼吸障害を含めて～

令和4年度～6年度笹川保健財団研究助成報告会 (2024年11月29日:東京)

加藤倫子:心不全患者の在宅ケアにおける情報通信技術の活用-重症度・生活環境に応じた Diversity Analyses-

久留米大学循環器病研究所市民公開講 2024 心臓と血管のはなし (2024年12月1日:久留米)

福本義弘:心臓リハビリテーションのお話

医師国家試験前学修支援プログラムオリエンテーション (2024年12月2日:久留米)

安川秀雄:メンタル・フィジカルを含めた体調管理について

シナプティック社内講演会 (2024年12月3日:福岡)

大江征嗣:ガイドライン改訂に基づく心房細動治療の最前線

有明循環器カンファレンス (2024年12月5日:荒尾)

貞松研二:症例提示

大分県心不全包括ケアカンファレンス(2024年12月5日:大分)

日野昭宏:日田・玖珠地域の心不全診療

CLTI workshop (2024年12月5日:熊本)

吉賀 巧:治療に今まさに悩んでいる症例 ～レオカーナの可能性～

香川県 SAS セミナー (2024年12月10日:高松)

特別講演

福本義弘:循環器疾患における睡眠時無呼吸症候群について

アルフレッサ社内講演会 (2024年12月10日:久留米)

大江征嗣:心房細動を早期発見する意義を考える

KURUME IMAGINE Project 連携 Hybrid 講演会(2024年12月10日：久留米)

大塚麻樹：CKDの早期発見・早期治療を考える

H E A L High-End Ablation using EnSite in Kurume (2024年12月11日：久留米)

加藤倫子：不整脈専門医の先生方と共有したい心臓サルコイドーシスの「多様性」

大江征嗣：EnSite X EP システムを用いた実践的治療応用

心血管疾患を考える会 (2024年12月13日：久留米)

甲斐久史：シンプルになってきたぞ！でも気配りは大切！！心房細動の診察室診療

令和6年度 医療安全対策研修会 (2024年12月16日：久留米)

横山晋二：医療安全の取り組み

Heart Failure Cross Talk Conference ～Fukuoka×Aichi～ (2024年12月17日：福岡)

芝尾昂大：MCS と GDMT で超急性期に立ち向かえ！

Symposium on Cardiovascular Prevention FS-CPC research laboratory(2024年12月18日：Berlin)

Fukumoto Y: Situation of Cardio-Protection in Japan: past-present-future

外科医による TAVI 徹底討論会 in 関西 (2024年1月25日：Web)

高瀬谷徹：外科医の考える Lifetime Management

EvolutTMFX Implanter's Summit in九州 (2024年2月6日：Web)

高瀬谷徹：これからの10年を見据えた TAVI 治療 ～Lifetime management～

久留米市内の透析患者様への AS 治療について考える会 (2024年2月15日：Web)

高瀬谷徹：久留米大学の AS 治療の現状

第50回高知県透析研究会 (2024年2月25日：高知)

今井伸一：透析患者さんへの心臓・血管治療

久留米大学医療センター 市民公開講座 (2024年3月2日：久留米)

廣松伸一：「足の血管ボコボコ（静脈瘤）を放ってても大丈夫？」～下肢静脈瘤の都市伝説を紐解く～

Medallion in West Japan 2024 (2024年4月13日：福岡)

大塚裕之：デバイスごとの特性を考慮した EVAR 後の Open Conversion

iNO Web seminar (2024年6月28日：Web)

田山栄基：心臓手術周術期における最近の iNO 使用トレンド

Live Symposium 地域でつなぐ心疾患 (2024年7月11日：Web)

高瀬谷徹：TAVI 10年の進化

WEP2024 (2024年7月28日：大阪)

高木数実：高度 MAC 合併 MS に対する MAC 温存 MVR

KTAVI ～Evolut™ conference～ (2024年9月6日：Web)

高瀬谷徹：スマートな TAVI

ESRD 症例における Valve performance の可能性 (2024年9月13日：Web)

高瀬谷徹：ESRD 症例における Valve performance の可能性

Edwards Surgical Webinar in WEST Japan (2024年9月17日：Web)

高木数実：当院における CEP 弁の長期成績と術後 CT から考える SAVR の人工弁選択

外科医による TAVI 徹底討論会 (2024年10月10日：Web)

高瀬谷徹：Evolut™ が導く外科医の TAVI

延岡医学会学術講演会 心臓血管外科における低侵襲手術の現況 (2024年10月18日：宮崎)

田山栄基：最新の心臓血管外科 ～Impella、TAVI 中心に～

久留米大学循環器病研究所 市民公開講座 (2024年12月1日：久留米)

田山栄基：急性大動脈解離って何ですか？

LEADERS MEETING with Expert Surgeons (2024年12月19日：長崎)

高瀬谷徹：TAV in SAVに最適な生体弁とは？ ～当院での経験を踏まえて正しい選択を考える～

第22回九州川崎病研究会 (2024年5月25日：長崎)

清松光貴、高瀬隆太、鍵山慶之、寺町陽三、須田憲治：当院における関節炎を来した川崎病症例の臨床像の検討

第79回広島小児循環器病研究会 (2024年6月1日：広島)

須田憲治：川崎病の慢性期管理

久留米大学循環器病研究所市民公開講座 (2024年12月1日：久留米)

須田憲治：こどもの心臓病と最新の治療

第9回九州山口胎児心臓研究会 (2024年12月7日：福岡)

寺町陽三：胎児の脈診

7, 顕彰

International Heart Journal Association Best Reviewer Award for 2023

Fukumoto Y

第16回福岡県医学会賞 奨励賞

柴田龍宏: 基本的心不全緩和ケアに関する医師教育プログラムの開発とその有効性の評価

第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 YIA (基礎) 優秀賞

芝尾昂大、安川秀雄、赤垣大樹、岡部浩太、嶋加奈子、福本義弘: IL-22 は右室圧負荷時にユニークな機序でリモデリングを抑制する。

Journal of Cardiology Cases Case Report Award2024 優秀賞

Shibao K, Murasato Y, Araki M, Tayama E, Fukumoto Y: Acute hypoxemia caused by Impella in a patient with fulminant myocarditis and patent foramen ovale

SfRBM 2024 Travel Award

Yamamoto M, Ash D, Varadarajan S, Zaidi SA, Rojas M, Xu Z, McMenamin M, Kelley S, Caldwell RB, Fukai T, Ushio-Fukai M: Novel Role of Copper Uptake Transporter CTR1 in Retinal Ischemia-Reperfusion Injury

第8回日本低侵襲心臓手術学会学術集会 最優秀演題賞 (カールストルツ賞)

高木数実: 正中切開と MICS による開心術後右室収縮能の検討: 僧帽弁位、大動脈弁位手術に違いはあるか?

第44回日本川崎病学会学術集会 Case Report 賞受賞

大津生利衣: 「初回免疫グロブリン療法で速やかに解熱したにも関わらず中等度以上の冠動脈瘤を合併した2例」

8, 研究助成金

文部科学省・日本学術振興会 科学研究費助成事業

令和4年度～令和6年度 基盤研究 (C)

加藤倫子：新型コロナウイルス感染症の心血管系合併症リスク層別化モデルの作成

佐々木健一郎：血管形成術後の慢性血栓塞栓性肺高血圧症再燃を肺動脈の微小血管抵抗指数で予測する

榎本美佳：一般住民における血中オキシトシン値と認知機能維持や抑うつ状態緩和との関連

大塚麻樹：心肺蘇生術普及のための KURUME MODEL の構築～学童へのアプローチ～

高橋甚彌：虚血再灌流障害に対する心筋保護機構における IL-22 結合タンパクの役割の解明

岡部浩太：虚血心筋細胞生存の病態解明 線維芽細胞の JAK/STAT3/SOCS3 経路の探求

赤垣大樹：梗塞後心筋リモデリングの病態における IL22 結合蛋白の役割の解明

中尾英智：大動脈解離病態の統合的理解を目指して：細胞老化と液性免疫の役割

令和5年度～令和8年度 基盤研究 (B)

青木浩樹：大動脈解離における嗅覚受容体の役割：化学物質センシングによる病態制御メカニズム

令和5年度～令和7年度 基盤研究 (C)

深水亜子：動脈硬化および腸管の炎症と食の関連についての疫学的検討

眞島涼平：大動脈解離における内皮バリア機能破綻の意義と FAK の役割解明

令和6年度～令和8年度 基盤研究 (C)

大野聡子：大動脈解離における血管周囲脂肪組織の炎症制御メカニズム解明

令和6年度～令和7年度 若手研究 (B)

森川 渚：血清 Exosome 内 Angiotensinogen 値は左室心筋重量と認知・運動機能に関連する

厚生労働科学研究費補助金

田原宣広（分担）：アミロイドーシスに関する調査研究（代表：関島良樹）

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)

令和3年度～令和6年度 臨床研究・治験推進研究事業

田原宣広（分担）：患者レジストリ Japan PH Registry を利活用した肺動脈性肺高血圧症に対する抗 IL-6 受容体抗体適応拡大のための医師主導治験（代表：田村雄一）

令和6年度 医療機器等研究成果展開事業

光武良亮（分担）：心不全予測を行う表情・音声の新規バイオマーカーに関する開発研究（代表：岡田興造）

その他

公益財団法人テルモ生命科学振興財団 2024 年度研究助成金

福本義弘：急性大動脈解離に対する新規治療デバイスの開発

令和6年度久留米大学石橋学術振興基金助成金

芝尾昂大：右室圧負荷モデルマウスの右室機能障害における IL-22 / IL-22BP 系の役割～心臓のホメオスタシスを構築するサイトカインに役割の解明～

令和6年度久留米大学ライフイベントと研究活動両立支援金制度

西木戸文：心停止後自己心拍再開 (ROSC) を得た患者において、入院時と翌朝の ACTH-コルチゾール値の低下反応と生命予後との関連について

第12回公益財団法人ロッセ財団研究助成金

野原 夢：中年期食事性のカルシウム摂取が認知機能、心血管病に与える影響、田主丸研究より

2024年度日本痛風・尿酸核酸学会 若手研究助成

森川 渚：一般住民における核酸代謝物質とフレイルとの関連性(宇久島コホート研究より)

第32回小林孫兵衛記念医学振興財団研究助成

下山茉世：遠隔医療への応用を目指した身体計測変量と心血管病リスクの研究：Zinc- α -glycoprotein(ZAG)の交絡効果の検討

令和6年度木村登循環器学研究基金研究助成金

緒方詔子：トランスサイレチンアミロイドーシスに対するグラボノイドの効果

森田浩介：4D-flow mapping と FDG-PET を用いた肥大型心筋症の心室頻拍の発生及び治療効果の判定

久貝忠大：肺高血圧症における脳心連関の解明

令和5年度～令和7年度 若手研究

朔 浩介：大動脈弁狭窄症とアミロイドーシスの関係解明

日本医療研究開発機構（AMED）創薬支援推進事業・創薬総合支援事業

外山研介：下肢閉塞性動脈疾患に対する血管新生治療薬の探索

令和6年度大学発新産業創出基金事業 スタートアップ・エコシステム共創プログラム

「PARKS スタートアップ創出プログラム ステップ1」

友枝 博：下肢浮腫における簡便な下肢静脈機能定量化装置の開発

AMED 難治性疾患実用化研究事業

須田憲治：川崎病冠動脈瘤を予防するための急性期難治例予測診断法の開発研究

厚生労働省難治性疾患政策研究事業

須田憲治：先天性心疾患を主体とする小児期発症の心血管難治性疾患の救命率の向上と生涯にわたる QOL 改善のための総合的研究

文部科学省科学研究費基盤研究(C)

須田憲治：低出生体重と内臓脂肪が学童の心血管機能に及ぼす影響の検討

文部科学省科学研究費若手研究

寺町陽三：サイトカイン及び mRNA 遺伝発現解析で迫る先天性完全房室ブロック発症機序解明

高瀬隆太：エピゲノム解析による免疫グロブリン療法抵抗性川崎病の機序解明

鍵山慶之：在胎不当過小児への成長ホルモン過剰による血管機能障害および動脈硬化前病変の調査

前田靖人：導出 18 誘導心電図を用いた肺高血圧症の診断方法の開発

